

合格へ導く 英語長文

Rise

Z会出版編集部 編

読解演習

1

基礎 編

高2～センター試験基礎レベル

はしがき

■ 合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習

大学入試の英語では、長文問題が最も多くの比重を占めています。近年の入試問題は、英文の語数増加や扱うテーマ・文体・設問の多様化などにより、これまで以上に総合的かつ複合的な読解の力が求められるようになっていくなっています。

『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』シリーズは、近年の入試で必要とされる長文問題の総合力を段階を追って着実に身に付けることができる長文読解問題集です。英文の文構造や全体の論理展開を正確に把握・理解する力はもちろん、「読めたつもり」ではなく「読み取ったことを答案として正確に伝える」ことを目指した良質な演習を重ねることで、志望校の合格を確実につかみとる実力を養成することができます。

1. 基礎編

大学入試に向けた英語学習において、読解演習はほぼすべての受験生が取り組む分野だと言えます。読解演習は、長文の読み取りや記述問題のまとめ方など、長文問題に特化した対策も必要ですが、単語や語法、文法、構文など個別に学習してきた知識を統合し、それらを実践的に結び付けることこそが読解演習で最も強みとなる力だと考えています。

このシリーズの中で導入的な位置づけとなる「1. 基礎編」は、本格的な英語長文読解の対策をここから始める方に向けて、そうした「実戦的な知識の総まとめ」を意識できるよう構成されています。基礎レベルとして取り組んでおきたい質の高い英文・設問を収録していることはもちろん、英文に登場する重要な文法・構文項目についてのまとめを掲載しているので、知識の確認や振り返りを行うことができます。また、解説中には英文構造の図解をたくさん含めていますので、問題に取り組んだあとの復習に役立ててください。

本書を活用することにより、ここから読解演習の力を高めていき、受験生の皆さんが志望校の合格を確かにする力を身に付けることを願ってやみません。

最後になりましたが、本書は英文の選定、設問・解説の執筆にあたり、戸田由美子先生に多大なるお力添えをいただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

Z 会出版編集部

CONTENTS

本書の構成・利用法	5
-----------	---

Unit 1

1 [科学] 亜細亜大学	
についての集客効果	10
読解 PLUS+ONE 分詞構文が表す代表的な意味／使役動詞	15
2 [自然・環境] 日本大学	
性別を変える魚	16
読解 PLUS+ONE 最上級を用いた代表的な表現／this is ～ の形の文	20
3 [人間] 広島経済大学	
モーツァルトができるまで	21
読解 PLUS+ONE 不定詞の用法のまとめ	26
4 [人間] (チャレンジ問題)	
絵を描くことの喜び	27

Unit 2

5 [言語・コミュニケーション] 高知大学	
日米の会話文化	34
読解 PLUS+ONE enough を用いた表現／one・another・other のまとめ	38
6 [自然・環境] 神戸学院大学	
ヒートアイランド現象	39
読解 PLUS+ONE 〈疑問詞 + to do〉／〈SVO + to do〉の形をとる代表的な動詞	43
7 [科学] 東京家政学院大学	
甘いものは疲れをとる？	44
読解 PLUS+ONE as の用法のまとめ／関係代名詞の非制限用法	49
8 [文化] (チャレンジ問題)	
選択に関わる文化の違い	50

Unit 3

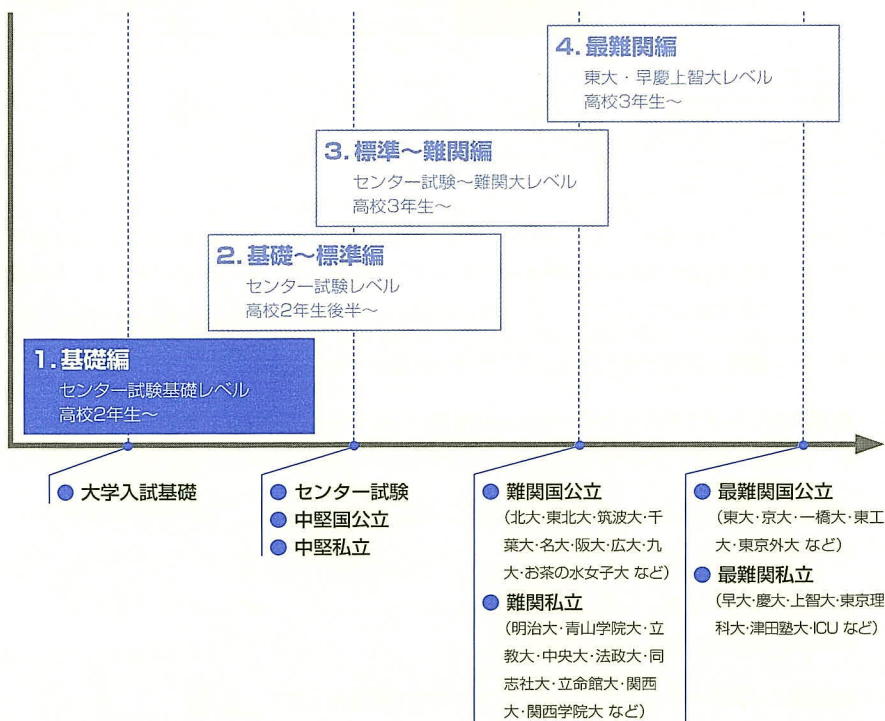
9 [自然・環境] 愛知学院大学	
明かりによって見えなくなるもの	58
読解 PLUS+ONE 比較級を用いた代表的な表現／倒置	63
10 [人間] 甲南大学	
嘘はいいこと？	65
読解 PLUS+ONE 動名詞と不定詞／省略	70
11 [歴史] 東京電機大学	
印刷機の誕生	71
読解 PLUS+ONE 無生物主語構文／‘目的’・‘結果’を表す副詞節を導く表現	76
12 [教育] (チャレンジ問題)	
教室における多様性に向き合う	77

1.『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』シリーズとは

本シリーズは、高校2年生から取り組むことができる「1. 基礎編」から、東大・早慶などの最難関レベルの大学受験にまで対応した「4. 最難関編」まで、4つのレベルで構成されています。

ここから読解対策を始める方から、実戦力を完成させたい方まで、志望大合格に必要な読解力を段階的に養成することができます。4つのレベルを通して、または自分の目標や英語学習の進捗に合わせたレベルから取り組んでみましょう。

▼対象レベル・学年の目安



「1. 基礎編」では…

- 本格的な入試対策に向けた基礎的な読解力を身に付けることを目指す
- 読解に不可欠となる重要文法の知識の確認・定着を目指す

2. 構成・利用法

本書は「問題編（別冊）」・「解答・解説編」から構成されています。

問題編

各英文の冒頭に、英文についての情報がまとめられています。

The diagram illustrates the layout of a problem set page. On the left, a sample text is shown with a blue box highlighting the header information. On the right, a detailed view of the header is provided, with numbered callouts 1 through 6 pointing to specific elements:

- 1: Unit (Unit 1)
- 2: Theme (科学・技術)
- 3: Word Count (300 words)
- 4: Time Limit (制限時間 10分)
- 5: University (出題大学 亜細亜大学)
- 6: Note (同じ意味を表す単語が複数登場する点に注意！)

- Unit**：各 Unit は 4 本の英文で構成されており、全部で 3 つの Unit があります。Unit が進むにつれ、英文や設問の難易度が徐々に上がるように配列していますので、無理なく習熟度を高めることができます。
- テーマ・語数**：英文で扱うテーマと、英文の総語数の目安です。
- 制限時間**：英文を読んで設問に取り組む時間の目安を示しています。時間に間に合わなくても、最後まで解きましょう。
- 出題大学**：英文の出題大学名です。総合的な読解力を養えるよう、設問は新たに書き下ろし、または一部改題しています。
- 取り組みアドバイス**：設問に取り組む上で気をつけたい点・心掛けたい点が書かれているので英文を読む前に確認しましょう。
- 難易度インジケータ**：英文の読みやすさ・設問の難易度を示すインジケータです。

また、英文の最後に **VOCABULARY IN FOCUS** —この文章のキーワード— として、英文の要旨を理解する上でキーワードとなる単語を取り上げています。設問に取り組む上でのヒントとして活用してください（ここで取り上げる単語の語義は「解答・解説編」に掲載しています）。

問題に取り組む上では、まずは**制限時間内**に**解答を出す**ことを目指しましょう。終わらなかったところは、辞書を使ってもよいので、自分の納得のいくまで答えを考えてみてください。

解答・解説編

問題に取り組んだら、「解答・解説編」で解答の確認をしましょう。問題は解きっぱなしにせずに、不明確な部分は解説や全訳を使ってしっかり復習しましょう。

効果的な復習の流れ

● 解答 ◀ 正しい答え をチェック ▶▶▶▶▶ ● 解説 ◀ 考え方 をチェック ▶▶▶▶▶ ● 全訳 ◀ 英文内容 をチェック

■ 解答・解説

Unit 1 Unit 2 Unit 3

1 においの集客効果

問題編 02

買い物中に店内にたどよう食べ物のいいにおい。人工的に作り出したにおいを商業で活かす試みとは？

VOCABULARY IN FOCUS 1. smell「におい(をかく)」 2. fake「にせの」 3. brain「脳」
4. sense「感覚」 5. mood「気分」

1 語法のポイント

㊦ 空所前の Your mouth begins は主語・動詞の関係。begin の目的語（「何を始めるか」）にあたる語は書かれていないので、空所以下が目的語になると考えられる。ここで **water** が動詞だということに気づけば、㊦ to を入れて to water という不定詞句を作り、これを begin の目的語にすることができる。動詞の water には「～に水をやる」という他動詞の意味もあるが、ここでは自動詞で「水がでる」という意味だと文脈から推測できる。第㉑段落最終文の water も同じ意味の動詞。

㊦ Your mouth begins (ア) water.

S	V	O
---	---	---

① **英文のまとめ**：英文で論じられている主題を簡潔にまとめています。英文のポイントがしっかりおさえられているかを確認する際に参考にしてください。

② **VOCABULARY IN FOCUS** の単語訳：「問題編」に掲載しているキーワードの単語の語義を掲載しています。

③ **設問の焦点**：設問において何を把握する力が求められているかを示しています。

④ **図解**：英文の構造や修飾関係などを視覚的に解説しています。

■ 全訳

⑤ **第1段落**

▶ ブラックスポットエンゼルフィッシュという名の魚がいるが、この魚はメスからオスに性別を変化させることができる。だが、単にオスになりたいと願うだけではそうすることはできない。この変化は、ある特定の理由で生じるものである。

▶ 1 (第1文) 句と節による名詞の二重修飾

There is a fish (called the blackspot angelfish) fish を修飾する過去分詞句と非制限用法の関係詞節
 (, which can change from female to male).

⑥ ☐ change from A to B 「A から B に変化する」 | ☐ wish to do 「…したいと望む」

⑤ **構文解説**：全訳中の青色マーカーで示された部分については、文構造の図解を掲載しています。訳と合わせて確認しましょう。

⑥ **語句・構文**：その段落に登場する重要語句、注意すべき語句や構文を取り上げています。太字で示された語は特に重要な単語なので、覚えておきましょう。

本書で使われている記号

S：主語 V：動詞 O：目的語 C：補語

[] 「節」であること、または「言い換え可能」であることを示します。

() 「句」であること、または省略可能であることを示します。

doing 動名詞または現在分詞 *to do* 不定詞 … 動詞や節の代用 ~ 名詞(句)の代用

なお、解説の最後には**読解 PLUS+ONE** というコラムを掲載しています。英文に登場する重要な文法事項についての知識の復習・まとめを解説しているので、復習に役立ててください。

チャレンジ問題

各 Unit の最後には**チャレンジ問題**を収録しています。解答を解答欄に直接記入でき、得点も出せるようになっているので、試験本番のような臨場感をもって取り組むことができます。各 Unit の学習が終わるごとに実力試しとして活用しましょう。

Unit の仕上げとして**チャレンジ問題**に取り組む

制限時間を意識しながら、記述問題もがんばって自分自身の解答を書いてみましょう。

解答を確認、得点を算出する

記述問題の一部には自己採点に役立つ**採点のポイント**が掲載されています。自分の答案を客観的に見ることは実力を伸ばす上でも重要です。

不明確な部分を残さないよう、よくできなかった問題にはもう一度取り組んで復習する

『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』の次のレベルに取り組んで、さらに実力強化！

Unit 1

1 においの集客効果

問題集 p.2

買い物中に店内にたばこ食べ物のいいにおい。人工的に作り出したにおいを商業で活かす試みとは？

- VOCABULARY IN FOCUS** 1. smell 「におい(をかく)」 2. fake 「にせの」 3. brain 「脳」
4. sense 「感覚」 5. mood 「気分」

● 解答 正しい答えをチェック

- 1 (ア) ② (イ) ④
2 科学者が作ったにせのクッキーのにおいにつられて、パン売り場に来てしまったこと。(39字)
3 (2) telling you what you smelled (3) you saw while eating it
4 ④
5 10年後には店でのにおいは、買い物客をいい気分にするために店でよく流れている心地よい音楽と同じくらいよく使われるようになるだろう
6 ① ○ ② × ③ × ④ ○

● 解説 考え方をチェック

1 語法の把握

(ア) 空所の前の Your mouth begins は主語・動詞の関係。begin の目的語（「何を始めるか」）にあたる語は書かれていないので、空所以下が目的語になると考えられる。ここで **water が動詞** だということに気づけば、② to を入れて to water という不定詞句を作り、これを begin の目的語にすることができる。動詞の water には「～に水をやる」という他動詞の意味もあるが、ここでは自動詞で「よだれが出る」という意味だと文脈から推測できる。第③段落最終文の water も同じ意味の動詞。

図解

Your mouth begins (ア) water.
S V O

(イ) この head を名詞の「頭」と解釈しても文の意味が通じない。名詞ではなく動詞（「～に向かって」進む）と考えれば、これが You の述語動詞であり、もう1つの述語動詞 forget と and で結ばれていることがわかる。動詞の head は「方向」を表す前置詞句や副詞とともに用いられることが多い。特に **head for ～** は「～に向かう」という成句として覚えておくとよい。ここでは唯一文脈に合致する④が正解。

図解

You forget about cereal and head (イ) the bakery section.
S V₁ V₂

2 文脈の把握

下線部の a trap は、直後で an odor trap (においの罠) という表現で言い換えられている。クッキーのにおいをかいでからの行動は、第①段落 4 文目 (You forget about ...) に書かれているが、これが「罠」である理由については、この段落の最後の 2 文にあることがわかる。したがって、「科学者が作り出した (客寄せのための) にせのにおい」の罠にかかって、「パン売り場 (bakery section) に向かった」ことをまとめて簡潔に解答すればよい。

3 文構造の把握

(2) [] の直前の部分は「感覚細胞は神経を通るメッセージを脳に送る」という意味である。空所の語の中に what があるので、これを先行詞を含む関係代名詞として用いる。動詞は telling と smelled の 2 つがあるが、telling だけでは述語にならないので、smelled を what 節の動詞とする。さらに、smelled の主語として you を置けば、what you smelled (あなたがにおいをかいだもの) という意味になる。telling は目的語を 2 つとることのできる他動詞なので、telling you what you smelled という現在分詞句を作ればよい。この現在分詞句が nerve messages を修飾すると考えれば、文意上も問題はない。

図解

sense cells send nerve messages (to your brain)
 S V O
 (telling you what you smelled)
 nerve messages を修飾する現在分詞句

(3) [] の前の部分までで文の SVO は揃っているので、空所はこれについての修飾部分だと考えられる。ここでは movie のあとで関係代名詞の省略が起きていると考え、you saw を続ける。while は接続詞なので副詞節を導くが、文脈から明らかな場合は主語と be 動詞が省略される場合があるので、while eating it (= while you were eating it) とする。it は前文の popcorn を指し、この部分全体で「ポップコーンを食べながら見た映画を思い出すかもしれない」の意味となる。

図解

you might remember the movie ((that) you saw (while eating it))
 S V O the movie を修飾

4 内容の把握

lead customers by the nose とは、直訳すると「鼻をつかんで客を導く」である。これは「catch + '人' + by the '体の部分'」(人の～をつかむ) と同様に、by でつかむ場所を示す表現。今回は文脈に基づいて意味を推測すればよく、その次の文 (These fake odors help to get ...) で補足説明されていることからわかるように、「においで人を操る [動かす]」ということの意味する。これに最も意味が近い選択肢は④である。

5 文構造の把握

図解

(in 10 years,)

store smells will be as common as the soft music that 以下が the soft music を修飾
 ((that) stores often play to put shoppers in a good mood)
 副詞用法の不定詞「…するために」

答案作成上のポイント

- as common as ～ は「～と同じくらい一般的で」。as を用いた比較構文の形。
- the soft music stores often play の箇所は、music と stores の間に関係代名詞（that または which）が省略されている。
- to put 以下は「目的」を表す副詞用法の不定詞で、stores often play を修飾する。put shoppers in a good mood とは「買い物客をいい気分にする」という意味。mood はここでは「気分」を表す。

語句 ・ in 「(今から) ～のあとに」

6 内容の把握

①○「もののにおいは、神経を通るメッセージとして鼻から脳に伝達される。」

第②段落第3～4文 (When you smell something ...) の内容に一致する。

②×「嗅覚は、過去に経験したことを思い出すのを助ける上では、他の感覚より役に立たない。」

第③段落第1文 (More than our other four senses, ...) に、「嗅覚は他の4つの感覚以上にものごとを思い出す助けとなる」と書かれている。

③×「何か奇妙なにおいをかぎ、それからそれを目で確認した時にのみ、人は危険に気づく。」

第③段落第4文 (Our sense of smell also helps ...) には、嗅覚が危険に気づく助けになると書かれているが、人が危険を感知する際に目で確認するという記述はない。

④○「店でにせのにおいを拡散することは、においを放った時だけでなく、将来的にも客をひきつける助けとなりうる。」

第④段落第4～5文 (These fake odors help ...) の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

あなたは、お気に入りのブランドのものを探しながら、スーパーのシリアルが置いてある通路に立っている。すると突然、焼きたてのクッキーのにおいがする。あなたの口からはよだれが出始める。あなたはシリアルのことなど忘れて、パンの売り場に向かう。これは一体どういうことだろうか。あなたは今ちょうど罠にかかってしまったのだ——においの罠に！ おいしそうなにおいは偽物だった。

▶¹ このにおいは科学者たちが研究室で作出し、それからあなたをパンの売り場におびき寄せようと、店主たちが拡散したものだのだ。

▶ 1 (第8文) 主語・動詞の関係の理解

The odor was cooked up (by scientists in a lab),

S V₁

then (was) spread (by the store's owners to lure you to the bakery section).

V₂

副詞用法の不定詞

- ☐ cereal 「穀物, シリアル」
☐ search for ～ 「～を探す」
☐ Guess what? 「何だと思う? ; どうなったか当ててみてよ。」

- ☐ cook up ～ 「～を作り上げる [でっち上げる]」
☐ lab = laboratory 「研究所 [研究室]; 実験室」
☐ spread 「～を広げる」

第②段落

科学者たちは長年, においのもつ特別な力を研究してきた。▶ 人の鼻と脳とはとても緊密につながっていると思われる。人が何かのにおいをかぐと, そのにおいは鼻の中を上がっていき, においを感じる部分に到達する。ここから, 感覚細胞は脳に何のにおいをかいだのかを伝える, 神経を通るメッセージを送るのである。

▶ 2 (第2文) 形式主語 it を用いた構文

It seems [that] our noses and our brains are very closely connected].

▲ It seems that ... 「…だと思われる」 ここでの It は that 以下の内容を受ける

- ☐ connect 「～をつなぐ [結びつける]」
☐ sense cell 「感覚細胞」

- ☐ nerve 「神経」

第③段落

嗅覚は(五感のうちの)他の4つの感覚よりも, 人の気分を変え, ものごとを思い出す助けとなる。▶ もしポップコーンについて考えなさいと言われたら, あなたはおそらくそのにおいを思い出すことだろう。それからさらに, ポップコーンを食べながら見た映画のことを思い出すかもしれない。また嗅覚は, 危険をかぎつける助けにもなる — 例えば煙のにおいがそうだ。さらに嗅覚は, 食べ物のおいがかすかにしただけでも, 口の中に唾液を発生させる。

▶ 3 (第2文) SVO to do の構文の受動態, 仮定法過去構文

[If you were told to think about popcorn,] you would probably recall its smell.

tell O to do (O に…するように言う) の受動態

仮定法過去「～だったら, …するだろう」

- ☐ more than ～ 「～以上に; ～よりも」
☐ help '人' (to) do 「～が…するのを助ける」

- ☐ recall 「～を思い出す」

第4 段落

▶4 においにそれほど力があるのなら、もしかすると製品の売り込みにも使えるかもしれないというのが店主たちの考えだ。そこでさまざまな会社が数千ドルを投じて、店全体ににおいをつけ始めた。にせのにおいは、嗅覚によって客を動かすために使われている。▶5 こうしたにせのにおいが、人々を店内に呼び込み、買いたいという気分させるのだ。しかもにおいには、客にあとで店のことを思い出させる効果すらあり、そのために客はさらに買い物をしようと戻ってくるのだ。

▶4 (第1文) 挿入構文

[If smell is so powerful,] then maybe it can also sell products.

say store owners,

V

S

挿入部分 (倒置が起きてV S の語順になっている)

▶5 (第4文) help (to) do

These fake odors help to get people inside

S

V

and (to) put them in the mood to buy.

help to do の不定詞が2つ並列されている

☐ **business** 「仕事；会社，店」

☐ **scent** 匂「～ににおいをつける」 図「におい」

☐ **customer** 「客，顧客」

☐ **get people inside** 「人の中に入れる」ここでは「店内に呼び込む」という意味。

☐ **put ~ in the mood to do** 「～を…したいという気分させる」

☐ **come back for more** 「より多くを得ようと戻ってくる」ここでは「さらに買い物をしようと再来店する」という意味。

第5 段落

ビジネス関係者の中には、10年後には店でのおいは、買い物客をいい気分にするために店でよく流れている心地よい音楽と同じくらいよく使われるようになるだろうと预言する人もいる。

1. 分詞構文が表す代表的な意味

▶第①段落 第1文

You're standing in the cereal aisle at the supermarket, **searching** for your favorite brand.
 「探しながら」

(1) 「…しながら」(‘付帯状況’)

We walked around **reading** the map. (私たちは地図を見ながら歩き回った。)

(2) 「…する時」「…している間」(‘時’)

Seeing the picture, I remembered my childhood clearly.

(写真を見て、私は子供の頃のことははっきり思い出した。)

(3) 「…なので」(‘原因・理由’)

Having a bad cold, she stayed in bed all day.

(ひどい風邪をひいたので、彼女は一日安静にしていた。)

(4) 「…して (そして)」(‘動作の連続’)

Taking out the mobile phone from his bag, Ted made a call to his office.

(かばんから携帯電話を取り出して、テッドはオフィスへ電話をかけた。)

2. 使役動詞

▶第③段落 第1文

our sense of smell changes our mood and **helps us remember** things
 「私たちが～を思い出すのを助ける」

▶第③段落 第5文

it can **make your mouth water** from just one whiff of food
 「口の中に唾液を発生させる」

ここでは〈V + O + 動詞の原形〉の形をとる代表的な使役動詞を紹介する。

(1) 〈make + O + 動詞の原形〉「～に(無理やり)…させる」

My mother **made** me clean up the room. (母は私に部屋の掃除をさせた。)

(2) 〈let + O + 動詞の原形〉「～に(望みどおり)…させる」

In this exhibition, they **let** us take pictures freely.

(この展覧会では、私たちは自由に写真を撮ってよい。)

(3) 〈have + O + 動詞の原形〉「～に…させる(してもらう)」

My brother **had** the doctor look at his back. (兄は医者に背中を診てもらった。)

※ 〈help + O + (to) 動詞の原形〉「～が…するのを手伝う」

動詞 help は目的語のあとに動詞の原形と不定詞のどちらも続くことがある。

2 性別を変える魚

問題編 p.5

メスがオスに性別を変える魚の生態と、性別転換の条件・過程とは？

- VOCABULARY IN FOCUS** 1. specific 「特定の」 2. security 「安全」 3. appearance 「外観」
4. behavior 「行動」 5. gender 「性別」 6. occupation 「職業」

解答 正しい答え をチェック

- ① 集団内のオスが死んだ時に、新たな護衛役が必要になるため。(28字)
② (ア) yellow (イ) blue
③ ④
④ ②
⑤ 他の魚の体から寄生虫や死細胞を取り除き、きれいにする行動。
⑥ ① × ② ○ ③ ○ ④ ×

解説 考え方 をチェック

1 文脈の把握

下線部を含む文の主語にある change は、第①段落第1文の can change from female to male の内容を指している。したがって、どのような理由でメスがオスに変わるかを説明することが求められる。

続く第②段落ではこの魚の生態が説明されているが、その中で、性別の変化が起こる場合を具体的に記述しているのは、第5文(When the male dies, ...)と第6文(This is when ...)であり、解答に含めるべきポイントは(i)集団のオスの死、(ii)そのオスに代わる護衛役の必要性の2点である。

図解

[When the male dies,] the group needs a 'security guard'.

→ This is when the largest female fish (in the group) begins to change its appearance.

This が前文全体を指す

S'

V'

2 内容の把握

空所を含む文は「1週間後には、このメスは(ア)から(イ)へと色を変え始める」である。第③段落はメスからオスへの性別の変化の過程を具体的に説明しているので、(ア)にはメスの、(イ)にはオスの体の色が入ると考えられる。それぞれの色は、第②段落第2文からメスが黄色、オスが青であるとわかる。したがって、(ア)に yellow, (イ)に blue が入る。

図解

And each group has one male fish $\{$, which is blue in color and has black stripes $\}$,
 and four female fish $\{$, which are yellow in color $\}$.

S V O₁ O₂

非制限用法の関係詞節（先行詞の内容を補足的に説明）

3 文脈の把握

限定的意味を持つ定冠詞 the や名詞の単複に注意して選択肢を具体的に解釈すると、それぞれ、①「その1匹のオス」、②「ある1匹のメス」、③「(限定されない) オスたち」、④「そのメスたち」という意味である。空所を含む文の意味は、「このメスの（ウ）への態度は、ゆっくりと変わっていく」なので、この中で最も文脈に適するのはオスに変化するメスを除いた「(集団内の) 他のすべてのメス」を指すと解釈できる④である。

4 文脈の把握

- ①「(㊦)絶対的な／(㊧)絶対的に」 ②「(㊦)完了した／(㊧)完全に」
 ③「(㊦)可能な／(㊧)ひょっとしたら」 ④「(㊦)十分な／(㊧)十分に」

空所を含む2文の意味は「このことは、性別の変化が（エ）ことを示す。このメスは、（オ）オスになったのだ！」である。各選択肢の意味を当てはめると、空所に入れるのに最も適当な選択肢は②である。ここでの形容詞 complete は「完全な」ではなく「完了して」の意味。

5 内容の把握

下線部の occupation（職業）がどのような行動を指すかは、続く第④段落第3～4文で説明されている。第3文では 'cleaners' for other fish（他の魚にとつての「清掃係」＝他の魚をきれいにする役目）と書かれており、また、第4文ではこの 'cleaners' をさらに具体的に、「他の魚の体から、寄生虫や死細胞をつつき取る」と説明している。これらの情報をまとめて解答すればよい。

6 内容の把握

- ①×「メスからオスへの性別の変化は、あらゆる規模のブラックスポットエンゼルフィッシュの集団で起こりうるものである。」

第②段落第2文（And each group has ...）に、集団はオス1匹とメス4匹で構成されると述べられているので、「あらゆる規模の集団で起こりうる」という部分が誤り。

- ②○「最も体の大きなメスの魚は、性別を変え始めた時にさらに大きくなる。」

メスからオスへの性別の変化の過程を述べた第④段落第1文（She begins to grow larger ...）の内容に一致する。

③○「エンゼルフィッシュの模様が、この魚の自然環境での生存に貢献することがある。」

第⑤段落第4文(These patterns help them ...)に「この模様は、エンゼルフィッシュが捕食者から隠れるのを助ける」とあり、この内容と一致する。

④×「エンゼルフィッシュの成魚と稚魚は、色や大きさが全く異なるので、成魚を稚魚と簡単に区別できる。」

第⑥段落最終文(Often, the young ones are ...)で、成魚と稚魚の色が異なることも多いと述べられているが、「色や大きさが全く異なる」という記述はない。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

▶¹ ブラックスポットエンゼルフィッシュという名の魚がいるが、この魚はメスからオスに性別を変化させることができる。だが、単にオスになりたいと願うだけではそうすることはできない。この変化は、ある特定の理由で生じるものである。

▶ 1 (第1文) 句と節による名詞の二重修飾

There is a fish (called the blackspot angelfish) fish を修飾する過去分詞句と非制限用法の関係詞節
↑
[which can change from female to male].

☐ change from A to B 「A から B に変化する」 | ☐ wish to do 「…したいと望む」

第2段落

ブラックスポットエンゼルフィッシュは集団で暮らす。そして各集団に、青色で黒いしまがあるオスが1匹と、黄色のメスが4匹いる。オスのブラックスポットエンゼルフィッシュは、この集団内で最も強くて体の大きなメンバーである。▶² オスはメスたちを守り、その面倒を見て、「護衛」のように振る舞う。そのオスが死ぬと、集団には「護衛」が1匹必要になる。そうなった時に、集団内で最も体の大きなメスが、その外見を変化させ始める。

▶ 2 (第4文) 関係詞節の範囲

He is the one (who protects and looks after the females
S V C protects と looks after の共通の目的語となるのが the females
and acts like their 'security guard').
acts の主語にあたるのは the one

☐ in color 「色が」 (in 「～の点で；～に関して」)
☐ stripe 「しま (模様)」
☐ protect 「～を守る [保護する]」
☐ look after 「～の世話をする」

☐ act 「行動する」
☐ This is when ... 「…するのはこの時である、この時に…する」

第③段落

このメスは、体が大きくなり始める。1週間後には、黄色から青へと色を変え始める。他のメスたちへのこのメスの態度は、ゆっくりと変わっていく。オスのように振る舞い始めるのだ。2週間後には、このメスの体に黒いしまが現れる。▶3 このことは、性別の変化が完了したことを示す。このメスは、完全にオスになったのだ！

▶ 3 (第6文) 動詞の目的語になる that 節

This indicates [that the gender change is complete]. 主語の This は前文の内容を指す

S V O indicates の目的語となる that 節

☐ behave 「振る舞う、行動する」

☐ indicate 「～を示す」

第④段落

この性別変化の過程は、雌雄同体現象と呼ばれる。▶4 エンゼルフィッシュについて、もう1つの興味深い事実は、この魚には、魚の世界における「職業」があるということだ。エンゼルフィッシュの大半が、他の魚にととの「清掃係」の役割を果たす。つまり、他の魚の体から寄生虫や死細胞をつつき取るのである。

▶ 4 (第2文) 補語になる that 節

Another interesting fact (about angelfish) is

S

V

[that they have an 'occupation' in the fish world].

C that 以下が補語となる

☐ process 「過程、経過」

☐ cleaner 「清掃人；掃除機」

☐ pick 「～をつつく〔つつき取る〕」

第⑤段落

▶5 エンゼルフィッシュは、海で最も鮮やかな色をした魚の1種である。この魚を家庭の水槽で目にもすることもある。その模様のおもしろさゆえに、人々はこの魚を飼いたがるのだ。この模様は、エンゼルフィッシュが捕食者から隠れるのを助ける。稚魚が、成魚と異なる色であることも多い。

▶ 5 (第1文) <among the 最上級+名詞>

The angelfish are among the most brightly colored fish of the sea.

(among the 最上級+名詞) 「最も～なもの1つ」 = one of the most brightly colored fish

☐ aquarium 「水族館；水槽」

☐ prefer to do 「…することを（より）好む」

☐ pattern 「模様」

☐ hide from ～ 「～から隠れる」

☐ differently colored than ～ 「～と色が異なる」
different(ly) than ～ = different(ly) from ～ 「～と異なり（異なつて）」

読解 PLUS+ ONE 重要文法を確認しよう

1. 最上級を用いた代表的な表現

▶ 第②段落 第3文

The male angelfish is **the strongest and largest member** of the group.
 「最も強くて体の大きなメンバー」

▶ 第⑤段落 第1文

The angelfish are **among the most brightly colored fish** of the sea.
 「最も鮮やかな色をした魚の1種」

(1) <the least + 原級> 「最も～でない」

I bought **the least expensive** watch in this store.
 (私はこの店で一番高くない〔最も安い〕時計を買った。)

(2) <the + 序数 + 最上級> 「～番目に…だ」

Canada is **the second largest** country in the world.
 (カナダは世界で2番目に大きな国だ。)

(3) <one of the + 形容詞の最上級 + 複数名詞> 「最も～なものの1つ」

The man whom I met yesterday is **one of the most famous soccer players** in England.
 (昨日私が会った人はイングランドで最も有名なサッカー選手の1人だ。)

※ 最上級の意味をさらに強める際には, **by far** や **much** をつける。

He is **by far** the tallest in our club. (私たちのクラブの中では彼が群を抜いて背が高い。)

2. this is ～ の形の文

▶ 第②段落 第6文

This is when the largest female fish in the group begins to change its appearance.
 「～するのはこの時だ」

(1) **this is when** ～ 「～するのはこの時だ」

(2) **this is how** ～ 「これが～する方法だ；このようにして～」

This is how I made this birthday cake.
 (これが私がこのバースデーケーキを作った方法だ。)

以下の2つは形は似ているが、表される意味に注意すること。

(3) **this is why** ～ 「こういうわけで～だ」

Tom had a severe headache. **This is why** he was absent from school yesterday.
 (トムは頭痛がひどかった。こういうわけで彼は昨日学校を欠席した。)

(4) **this is because** ～ 「それは～だからだ」

Tom was absent yesterday. **This is because** he had a severe headache.
 (トムは昨日欠席した。それはひどい頭痛がしたからだ。)

3 モーツァルトができるまで

問題編 p.8

モーツァルトほどの才能の持ち主でも、大成するまでには一定の時間を要した。技能の真の習得に必要な時間とは？

VOCABULARY IN FOCUS 1. talent 「才能」 2. produce 「～を作り出す」 3. master 「～を習得する」 4. skill 「技能」 5. spend 「～を過ごす」 6. limited 「限られた」

• 解答 **正しい答え** をチェック

- 1 ④
 2 had
 3 ④
 4 ②
 5 (ウ) ③ (エ) ②
 6 ① × ② × ③ ○ ④ × ⑤ ○

• 解説 **考え方** をチェック

1 文脈の把握

空所を含む文では、(ア)から years まだが is の主語にあたる。①の many what について、what が導く名詞節全体を形容詞 (many) で修飾することはできないので不適。②の場合、what most Mozart produced in his early years となるが、この語順では most は Mozart を修飾することになり、意味をなさなくなる。③ which mostly では、which を関係詞と解釈すると先行詞がないので不適であり、また which を疑問詞 (どれ [どちら]) と解釈しても、意味をなさない。④の much of what では、**what** 節が **of** の目的語となり、これは文法的に問題ない。そして much of what ～ で「～であることの多く」を表し、意味の上でも問題ない。したがって、正解は④。



much of what (= the things which) Mozart produced (in his early years)

S

is not considered to be particularly outstanding

V be considered to be ～「～だと見なされる」(consider A to be B (A を B と見なす) の受動態)

2 文構造の把握

空所を含む文の Mozart 以下を見ると、by this time が「この頃までに」という意味であり、for 10 years が「10年間」という「期間」を表すことから、ここは「この頃 (= 21 歳の頃) までにすでに 10 年間作曲を続けていた」という内容だと判断できる。過去のある時点までの行動の継続を表すには過去完了進行形 (had been doing) を用いればよいので、空所(イ)には had が入るとわかる。なお、同じ文の pretty young to be sure の部分は pretty young の前に he was が省略されていると考えられる。

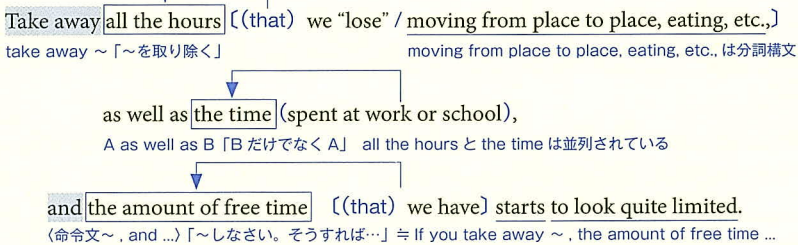
3 語句の意味の把握

- ①「私の母は、若い頃スタイルがよかったと私に話した。」
 ②「彼女の父は大変な著名人だった。」
 ③「図2はインドの経済成長率を示している。」
 ④「彼は私たちに、それにいくらかかかるかの正確な数字を示した。」

下線部の直後に 10,000 hours という時間数が書かれているので、この figure は「数、数字」という意味だと考えられる。したがって、これと同じ意味の選択肢は④。他の選択肢でも figure はすべて名詞で使われており、①「体型」、②「人物」、③「図」の意味。なお、動詞の figure には「～と思う〔想像する〕」などの意味があり、figure out ～（～を理解する）という成句でもよく用いられる。

4 内容の把握

図解



下線部は〈命令文～, and ...〉の構文であり、「～しなさい。そうすれば…」という訳になるが、「もし～するならば、…」と同義なので、if を用いて言い換えることができる。the amount of free time はこの構文の and 以下の主語であり、all the hours や the time と並列ではない点に注意する。なお、we "lose" と、we have の前にはそれぞれ関係代名詞が省略されており、また、spent は前の名詞 the time を修飾する過去分詞である。

したがって、この文は「仕事や学校の時間と、移動や食事などにかかる時間をすべて除くと、残った自由時間は大いに限られる」という主旨であり、これに最も近い内容の選択肢は②である。

5 文構造・成句の把握

(ウ) 文構造ならびに選択肢の内容から、making (ウ) of は your free time を目的語とする群動詞だと考えられる。①の make fun of ～は「～をからかう」、③の make use of ～は「～を活用する」、④の make little of ～は「～を軽視する」という意味であり、この文脈では③が最も適当。なお②は、make ではなく take advantage of ～で「～を利用する」という意味になる。

- (㊦) ①は keep (in) contact with ~ (人) で「~と連絡を取り続ける」という意味。④も keep in touch with ~ で①と同様に「~と連絡を取り続ける」という意味になるが、ともにここではあとに続く how 節が keep の目的語にならず、文意も通らないので不適。②は keep ~ in mind で「~を心に留める〔覚えておく〕」という意味になり、文脈に合致する。今回のように目的語が長い場合、keep in mind ~ という語順も可。③は keep pace with ~ で「~に歩調を合わせる」という意味。

6 内容の把握

- ①×「筆者は、人の成功は、熱心な取り組みよりも生まれつきの才能に左右されると考えている。」

第②段落第3文 (Natural ability is, ...) から、生まれつきの能力も成功の大切な要因の1つだが、長期間の熱心な取り組みも必要だとわかる。

- ②×「成功を望むのであれば、疲労から回復するために適切な量の睡眠をとることが望ましい。」

第③段落第2文 (Although that seems like ...) に、「生活時間の約3分の1は睡眠だ」という記述はあるが、疲労回復が成功のための要素だとは述べられていない。

- ③○「ある技能を完全に習得するには、そのための練習や学習に1日あたり2時間かけるとして、10年以上かかるだろう。」

第②段落第1~2文 (The figure of ...) に、「ある技能を真に修得するためには1万時間が必要とされており、1日2時間費やすとすると約14年かかる」とある。

- ④×「先進国の人は、途上国の人よりも健康的に生活を送る傾向があるので、偉大なことを達成する可能性がより高い。」

第④段落第1文 (Most people ...) で、先進国の人が健康的に生活を送る年数について言及されているが、途上国と比較した箇所はない。

- ⑤○「筆者は、特定の技能を習得するには、自由時間を賢くやりくりすることが不可欠だと助言している。」

第④段落最終文 (In order to reach ...) の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

作曲家モーツァルトは、ほんの幼い時に音楽の才能を示したことで有名である。だが、モーツァルトが幼い頃に生み出した曲の大半は、特に傑出した作品とは考えられていない。▶¹ 彼が初めて真の傑作と言える曲を作曲したのは、21歳の時だった。かなり若かったことは確かだが、モーツァルトは、その頃にはすでに10年もの間作曲を行っていたのである。

▶1 (第3文) not ~ until ... の構文

He didn't produce his first true masterpiece (until he was 21)

not ~ until ... 「…するまで (…になるまで) ~ない」「…して (…になって) 初めて~」

- ☐ **composer** 図「作曲家」 < compose 他「～を作曲する」
- ☐ **consider A to be B** 「AをBと見なす〔考える〕」
- ☐ **outstanding** 「傑出した、目立つ」

- ☐ ~ to be sure, but ... 「なるほど〔確かに〕～ではあるが、…」
- ☐ **by this time** 「この頃までに、この時には」

第2段落

▶² ある技能を真の意味で習得するのに必要とされる真剣な練習や学習の量として、1万時間という数字が示されている。この時間数は、14年間毎日、1日2時間近くを費やすことに相当する。当然のことだが、生まれつきの能力は成功を左右する重要な要因の1つである。だが、▶³ モーツァルトほどの才能の持ち主でさえも、1万時間に及ぶ懸命な取り組みを重ねて、初めて「偉大な」作曲家になることができたのである。ゴルファーのタイガー・ウッズや、コンピューター界の天才ビル・ゲイツについても、同じことが言える。

▶² (第1文) 前置詞 as 「～として」

The figure of 10,000 hours has been suggested

S

V

as [the amount of serious practice or study] [(that is) needed to truly master a skill].
「～として」 ↑ 副詞用法の不定詞

▶³ (第3文) as ~ as ... の構文

even someone (as talented as Mozart) couldn't become a "great" composer

S as talented as ~ 「～と同じくらい才能がある」

V

C

[until he had put in 10,000 hours of hard work]

ここも not ~ until ... の形をとっている

- ☐ **suggest** 「～を示唆する；～を提案する」
- ☐ **amount** 「量」
- ☐ **nearly** 「ほとんど、ほぼ」
- ☐ **natural ability** 「生まれつきの〔生来の〕能力」

- ☐ **talented** 図「才能がある」
- ☐ **the same can be said of ~** 「～について同じことが言える」
- ☐ **genius** 「天才」

第3段落

先進国のほとんどの人は、少なくとも70年、時間にして613,608時間にわたって健康な生活を送ると考えられる。この数字は大量の時間のように思われるが、大半の人は、その約3分の1を眠った状態で過ごす。職場や学校で過ごす時間だけでなく、あちこちへの移動や食事などで「失う」時間すべてを除いてしまうと、私たちに残された自由な時間は、極めて限られたものに見えてくる。

- ☐ **developed country** 「先進国」
- ☐ **expect** 「～を期待〔予期〕する」
- ☐ **at least** 「少なくとも」

- ☐ **asleep** 「眠って (いる)」
- ☐ **from place to place** 「あちこちに」

第 4 段落

あなたは、自分の自由時間を利用して練習したり学習したりすることで、いつか何かに大いに秀でることを望んでいるだろうか。▶4 そうであれば、1 つの技能を習得するのに一体どれだけの時間を要するのか、そして、自分の自由になる時間が実際にはどれだけ限られているのかを心に留めておくのは、よい考えだろう。目標を達成するには、間違いなく、限られた自由時間を極めて賢明に過ごさなければならぬのだ。

▶4 (第 2 文) it ~ to ... 構文、動詞の目的語となる how 節

(If so,) it would be a good idea to keep in mind

形式主語の it

just how many hours it actually takes to master a skill,

keep in mind の目的語となる名詞節①

and how limited your free time really is.

keep in mind の目的語となる名詞節②

☐ reach one's goal 「～の目標を達成する」

☐ most certainly 「間違いなく」

☐ wisely 「賢明に」

1. 不定詞の用法のまとめ

▶ 第②段落 第1文

The figure of 10,000 hours has been suggested as the amount of serious practice or study needed **to truly master a skill**.

「真に技能を習得するために」

▶ 第③段落 第1文

Most people in developed countries can expect **to have a healthy life** of at least 70 years, or 613,608 hours.

「健康な生活を送ること」

〈to + 動詞の原形〉の形をとる不定詞には大きく3つの用法がある。

- (1) **名詞用法**：「…すること」の意味で、名詞と同じく文中で主語・目的語・補語になる。

To listen to music always excites me. (音楽を聴くことはいつも私をわくわくさせる。)

I want **to see** that movie with English subtitles.

(私はその映画を英語の字幕で見たい。)

My daughter's dream is **to become** a painter. (私の娘の夢は絵描きになることだ。)

- (2) **形容詞用法**：「…するための；…すべき」の意味で、形容詞同様に名詞を修飾する。

I have many things **to tell** you. (私はあなたに話すべきことがたくさんある。)

- ※ 形容詞用法の不定詞は不定代名詞を修飾する際にも使われる。不定代名詞に形容詞が続く場合は、不定詞の前に置かれる。

Let's buy something hot **to drink**. (何か温かい飲み物を買いましょう。)

- (3) **副詞用法**：「…するために」の意味で、'動作の目的'を表すのに使われる。

I have to study biology hard **to pass** the exam.

(私は試験に合格するために生物を一所懸命勉強しなければならない。)

- ※ 副詞用法の不定詞は'結果'や'感情の原因'を表す際にも用いられる。

Ted woke up **to find** that it was already 9:00 a.m.

(テッドが目覚めると、すでに午前9時であることがわかった。)

All of the students were surprised **to hear** that they had won the first prize.

(優勝したと聞いて、生徒たちはみな驚いた。)

- ※ 不定詞はしばしば形式主語・形式目的語のitを使って置き換えられることがある。

It is important **to eat** regularly every day. (毎日規則正しく食べることが重要だ。)

She found it difficult **to keep** in touch with friends who were abroad.

(彼女は海外にいる友人と連絡を取り続けるのは困難だと思った。)

4 絵を描くことの喜び

問題編 p.11

筆者はどのように自身の絵の才能に気づいたか？ また、絵を描くようになってから、周りの人々とどのように関わったか？

● 解答 正しい答えをチェック

1 ④

2 筆者の描いたカラスが、本物のカラスと同じように木にとまっているのを見て、才能があることに気づいた。(49字)

【別解】 筆者が描いた絵の中のカラスが木にとまっている様子が本物そっくりだったので、才能があると思った。(47字)

3 ②

4 父には、息子たちのすることは何でも並外れていると、心の底から信じることのできる才能があった。

5 ④

6 ① × ② × ③ × ④ ○

● 解説 考え方をチェック

1 内容の把握

- ①「筆者は、自分に絵の才能があると気づいたので、絵を描くことを楽しむようになった。」
 ②「筆者の才能は、学校に通い始めたあとに、筆者自身ではなく他の人によって発見された。」
 ③「筆者は、学校に通い始めた直後は自分に絵の才能があることを認めたくなかった。」
 ④「筆者が絵を描くことを楽しむようになった時、その喜びの方が才能があるかどうかよりも重要であった。」

第①段落では、まず第1文(Not long after ...)で「学校に通い始めて間もなく絵を描く楽しみを発見した」ことが、さらに第3文(If there was ...)で「学校に通い始めるまで絵を描くことへの愛情や才能に気づいていなかった」ことが記述されている。そして第4～5文(It would be ...)でも、「絵を描いていたのはそれが楽しかったからであり、才能に気づいたのはそのあとだった」ということが述べられていることから、この段落の主旨として最も適当な選択肢は④である。選択肢中の matter は自動詞で「重要である」という意味。

①は「絵の才能があると気づいたので」の部分が第4～5文に一致しない。②は「(絵の才能は)筆者自身ではなく他の人によって発見された」の部分が誤り。③は「絵の才能があることを認めたくなかった」という部分が本文に書かれていない内容である。

2 文脈の把握

下線部を含む筆者の質問（「どのように筆者の絵の才能を認識するようになったのか」）に対する父の返答は、次の文（「You did a drawing ...」から同段落の終わり（... a real crow would be.」）までである。この中で特にポイントになるのは「**筆者が木と、その木の枝にとまるカラスの絵を描いた**」こと、ならびに「**そのカラスのとまり方が本物とそっくりだった**」という2点である。この2つのポイントをまとめて解答すればよい。

なお、この段落の最終文の just the way a real crow would be の **just the way S V** は「まさに～が…するやり方で」の意味。a real crow would be の would は、「もし本物のカラスなら」という仮定の意味を含んでおり、be のあとには perched on the branch が省略されている。

採点のポイント

- ①「**筆者が木とその枝にとまるカラスの絵を描いた**」（6点）
- ②「**カラスが木にとまる様子が本物とそっくりだった**」（6点）

▲ 文末表現・字数制限（全体から減点）

(×)「～して、筆者の絵の才能に気づいた」のように、「どのように筆者の絵の才能に気づいたか」という質問に対する答えであることを示す内容を含まないもの（-2点）

(×) 39 字以下、51 字以上のもの（-2点）

3 文脈と語法の把握

- ①「…だったに違いない」
- ②「…ではなかったかもしれない」
- ③「…であるべきだった [だったはずだ]」
- ④「…であるべきではなかった」

空所を含む文の意味は「それ(父の説明)は実際には質問に対する答えになっていなかったし、厳密には真実（ア）が、私はこの話が大好きで、大いに喜んでそれを信じていた」である。「譲歩」を表す接続詞 Although（…であるけれども）が用いられていること、さらに次の文（Most probably ...）で、筆者が「おそらく自分のカラスは著しく完成されたものではなかった」という意見を述べていることから、空所を含む部分は「**(自分の絵を高く評価する父の発言が) 厳密には真実ではなかったかもしれない**」という意味になる②が最も適当。

4 文構造の把握

図解

What is clear is

S V that 節以下から文末までが補語となる

[that my father, ever the optimist, and always much too sure of himself,

S'

had a talent for believing (from the bottom of his heart)

V「…する才能があった」

[that anything [(that) his sons did] was extraordinary]].

believing の目的語になる that 節（文末まで）

答案作成上のポイント

- had a talent for believing that ... で「…ということを信じる才能があった」という意味であり、動詞と目的語の間に from the bottom of his heart (心の底から) が挿入されている。
- that 節では、anything his sons did (息子たちのすることは何でも) が主語になっている。anything と his sons の間に関係代名詞が省略されていることを見抜くこと。

語句 ・be sure of oneself 「自分に自信をもっている」 ・extraordinary 「並外れた、飛び抜けた」

採点のポイント

配点 10 点

- ① had a talent for believing from the bottom of his heart
(4 点)
- ② that anything his sons did was extraordinary
(6 点)

➡ 設問指定 (全体から減点)

「主語として『父』を補う」という設問の指定を守っていない場合は -2 点。

- ① had a talent for believing from the bottom of his heart 「心の底から信じることのできる才能があった」 (4 点)

➡ had a talent for の訳 (2 点)

(○) 「…する才能があった」 (○) 「…する才能を持っていた」

➡ believing from the bottom of his heart の訳 (2 点)

- ② that anything his sons did was extraordinary 「息子たちのすることは何でも並外れている」 (6 点)

➡ 構文理解

that 節以下が believing の目的語であること、また anything his sons did がこの that 節中の主語であることがとらえられていない場合は -6 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

➡ anything his sons did の訳 (4 点)

(△) 「彼の息子たちがした何か」 (-2 点) anything は「何でも」の意味

5 文脈の把握

下線部中の it は前文の a machine を指している。これは、下線部に登場する turn ~ on (～のスイッチを入れる)、churn out ~ (～を量産する) といった機械に関連する表現からも推測できる。この machine については、前文で「他の人たちが私を愛してキスをし、あがめずにはいられなくさせる機械」と説明されている。これは、筆者が絵を描く度に周りの人々から称賛を得られることから、自らの絵の才能を周りから愛情や称賛を得る「機械」に例えたものである。

したがって、下線部は「退屈した時はいつでも機械（＝絵を描く才能）のスイッチを入れ、2～3枚絵を描いたものだった」という意味になり、すなわち「退屈したら絵を描いて（称賛を集めることにより）退屈を解消した」ことを表す。したがって、この内容に最も近い選択肢④が正解である。なお、boreは「退屈させる」という意味の他動詞で、get boredで「退屈する」の意味。wouldは「過去の習慣・習性」を表す助動詞。①は「機械で遊んだ」の部分が誤り。②について、「自分の腕を磨こうとした」という部分は本文に記述がない。③は「自分の絵が機械のように周囲をひきつける力を持つ」という部分が誤り。

6 内容の把握

①×「筆者はあとになって、自分には本物の芸術家ほどの才能がないと知って失望した。」

筆者の絵の才能に関する話は本文全体で書かれているが、「本物の芸術家ほどの才能がないと知り失望した」に該当する記述はない。

②×「筆者が7歳の時に描いたカラスは、クラスメートたちの絵よりもはるかに優れていた。」

第④段落第2文（Most probably ...）で「私の描いたカラスは7歳の子供にしては著しく完成されたものというわけではなかっただろう」と述べられており、またクラスメートの絵と比較したという記述もない。

③×「筆者は、絵を描くためのもっといい道具があれば、よりよい作品を生み出せるだろうと
以前は考えていた。」

第⑥段落第3文（They kept buying ...）で「紙や鉛筆やペンなどの道具を買ってもらった」という記述はあるが、「もっといい道具があれば」という記述はない。

④○「筆者は、見せに行った絵に対する父の反応の仕方に、いつも満足していた。」

第⑤段落第4文（He always gave me ...）の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

学校に通い始めて間もなく、私は、線や絵の具で絵を描くことに喜びを見出した。もしかすると、「見出す」というのは誤った語かもしれない。^{▶1} この言葉は、例えば新世界のように、見つけてもらうのを待っているものの存在を暗示するからだ。私の中に、絵を描くことに対するひそかな愛情や才能が隠れていたのだとすれば、私は学校に通い始めるまで、それに気づいていなかったのだ。^{▶2} 描くことがこの上ない喜びだとわかったから絵を描いていたと言う方がより正確だろう。才能が明らかになったのはあとになってからであり、最初はそのようなものは全く存在しなかったのだ。

▶ 1 (第2文) 目的語になる that 節, 現在分詞句による修飾

Perhaps 'discover' is the wrong word —

it implies (that there was something — like the New World — (waiting to be found)).
 it='discover' V that 以下が目的語 something を修飾する現在分詞句

▶ 2 (第4文) 不定詞を受ける形式主語 it

It would be more accurate to say (that I painted (because I found it blissful)).
 形式主語 真主語となる不定詞句 find O C 「O が C だとわかる (気づく)」

- ☐ not long after ... 「…から間もなく」
- ☐ discover 「～を発見する」
- ☐ pleasure 「喜び」
- ☐ drawing 「線画 (を描くこと), 素描」
- ☐ painting 「(絵の具で) 絵を描くこと」

- ☐ imply 「～を暗示する {ほのめかす}」
- ☐ aware of 「～を意識して; ～に気づいて」
- ☐ by the time S V 「…する時までに」
- ☐ accurate 「正確な」
- ☐ afterwards 「あとで, その後」

第2段落

もしかすると私には確かに才能があったのかもしれないが, そのことは重要ではなかった。私は単に、絵を描くことが自分を幸福にしてくれると気づいたのだ。それが大切な要素だった。

- ☐ point 「論点, 要点, 核心」

第3段落

それから何年も経ったある晩に, 私は父に, どのように私の芸術に対する才能を認識するようになったのかたずねた。父は私に言った。「お前が木の絵を描いて, それから1本の枝の上にカラスを描いたんだ。母さんと私は顔を見合わせたよ。カラスが, 本物のカラスと全く同じように枝にとまっていたからね。」

- ☐ gift 「(天賦の) 才能; 贈り物」
- ☐ crow 「カラス」
- ☐ branch 「枝」

第4段落

この父の説明は実際には質問に対する答えになっていなかったし, 厳密には真実ではなかったかもしれないが, 私はこの話が大好きで, 大いに喜んでそれを信じていた。^{▶3} おそらく, 私の描いたカラスは7歳の子供にしては著しく完成されたものというわけではなかっただろう。明らかなのは, 常に楽観主義者であり, いつも大いに自分に自信があった私の父には, 息子たちのすることは何でも並外れていると心の底から信じる才能があったということだ。この考え方は人に伝染しやすく, 私も自分のことを大変芸術的に優れていると考えるようになった。

▶3 (第2文) 二重否定

(Most probably) my crow was not unusually accomplished for a seven-year-old boy.

S V unusually (異常に, めずらしく) に否定の not がついて, 「めずらしくない (7歳の子供としてめずらしい完成度ではない)」の意味になる

Unit 2

5 日米の会話文化

問題編 p.15

2つの例えから見えてくる、日米の会話様式の違いとは？

- VOCABULARY IN FOCUS** 1. conversation 「会話」 2. continue 「続く」 3. impatient 「いらいらした」 4. style 「様式」 5. compare 「～に例える」 6. participant 「参加者」

● 解答 正しい答えをチェック

- 1 (ア) ② (イ) ④
 2 ④
 3 ③
 4 会話での順番は、地位、年齢、そして相手との関係によって決まる。
 5 前の人の話が終わるまでは、誰も話をしないということ。
 6 ① ○ ② ○ ③ × ④ ○ ⑤ ×

● 解説 考え方をチェック

1 文脈の把握

- (ア) ①「球の種類を変える」 ②「球を返さない」
 ③「予想外のやり方で打ち返す」 ④「相手よりはるかに上手に卓球をする」

空所直後の内容から、空所には**会話が止まる原因となる行動**が入ると考えられる。空所を含む文の直前の2つの文で、1人が球を相手に向かって打つと相手が打ち返し、それで試合が続くということが書かれており、ここでの ball は「**会話における言葉・発言**」の比喩だと解釈できる。つまり、会話が止まるのは「相手に向かって球を打たない(＝発言をしない)」場合だと考えられるので、空所に入れるのに最も適当な選択肢は②である。

- (イ) ①「頻繁にうなずきすぎる」 ②「話を聞く方を好む」
 ③「新しい話題を開始する」 ④「しゃべりすぎる」

空所を含む文の意味は、「どちらか1人が(イ)ならば、もう1人がいらいらし、相手が会話を独占していると感じる場合もある」となる。したがって、空所には「**相手が会話を独占している**」の箇所に関連する表現である④が入る。

2 文脈の把握

- ①「その結果」 ②「率直に言う」と ③「特に」 ④「同様に」

空所を含む文では、「1人が会話を進行させ続けるのに十分なほど話したり質問したりしない場合は、会話は止まってしまう」という内容が述べられている。一方、その前の文は、①で説明したように相手が会話を独占する場合について記述している。つまりどちらの文も**会話が円滑に進まない事例についての説明**なので、④ Similarly が2つの内容をつなぐのに最も適

当な語である。①のような原因と結果の関係はこの2文の間には存在せず、また②や③の場合も前文とのつながりが不自然になる。

3 文脈の把握

①「～に相当する」 ②「～と関わっている」 ③「～と対照となる」 ④「～について熟考する」

選択肢はすべて動詞・be 動詞で始まっていること、空所の直前に that があることに着目する。that の前には名詞句 An example of a conversation style があるので、空所を含む that (工) the American “Ping-Pong” conversation style の箇所は関係詞節だと考えられ、空所を含む文は「アメリカ人の『卓球』的な会話の様式 (工) 会話様式の 1 つの例は、日本人の間でのフォーマルな会話であり、この会話はボウリングに例えられてきた」という意味になる。これ以降の内容から、日本人のフォーマルな会話の様式は、アメリカ人の会話と大きく異なる対照的なものだといえるので、空所に入れるのに最も適当な選択肢は③である。

An example of a conversation style

S  {that contrasts with the American “Ping-Pong” conversation style}

is formal conversation (among the Japanese)  〔, which has been compared to bowling〕.

 非制限用法の関係詞節

4 文構造の把握

圖解

One's turn depends on status, age, and the relationship to the other person.

S V status · age · the relationship to the other person の3つが depends on の目的語

答案作成上のポイント

- **turn** は「順番」の意味。動詞の **depends on** ～ はここでは「～に依存する」という意味ではなく、「～次第である、～によって決まる」という意味で解釈すればよい。
- **status** は「地位」、**age** は「年齢」、**the relationship to the other person** は「相手との関係」。それぞれが **depends on** の目的語となる。
- **the other person** は、〈**the other** + 単数名詞〉の形で、「2つのうちのもう1つ；複数のうちの残りの最後の1つ」という意味を表す。ここでは「(会話の) 相手」を指している。

5 内容の把握

下線部の訳は「球がボウリングのピンに達するまで、他の者は誰も話をしない」である。ここでは、the ball has reached the bowling pinsが、会話におけるどのようなことの比喩かを説明した解答の作成が求められている。

①の(ア)で説明したように、第①段落におけるアメリカ人の会話についての記述の中では、ballが「言葉」や「発言」の比喩表現として用いられていたが、第②段落でもballは「言葉・発言」の比喩であると考えられる。下線部の2つ前の文(When it is ...)もそのヒントとなる。

次にhas reached the bowling pins(ボウリングのピンに達する)の箇所は、転がした球(=開始された発言)が最終地点に至ること、つまり発言が終了することを意味している。したがって、「前の人の発言が終わるまで、誰も話をしない」という主旨で解答をまとめればよい。

6 内容の把握

①○「アメリカ人の間の会話では、全体を通して『卓球』式のやりとりが見られる。」

第①段落第5文(Each part of ...)の内容に一致する。

②○「アメリカ人の間で会話を続ける上で、質問が重要な役割を果たすことがある。」

第①段落最終文(Similarly, if one person ...)の内容に一致する。

③×「日本人は時に、×会話中に適切なタイミングで話すことを難しいと感じる。」

第②段落第2文(Each participant ...)の後半で「日本人は話すのに適切な時がいつなのかを正確に把握している」とあるので誤り。

④○「日本人は質問を受けた時に、答える際注意深く言葉を選ぼうとする。」

第②段落第8文(Answers to questions are ...)の内容に一致する。

⑤×「アメリカ人は×会話における沈黙に慣れているが、あまりにも頻繁であれば沈黙は望ましくないとみなしている。」

第②段落第10文(For Americans, ...)に、「2、3秒の沈黙でも不愉快となりうる」と書かれているが、沈黙への慣れや沈黙の頻度に関する言及はない。

全訳

英文内容

をチェック

第①段落

▶¹ これまで一部の外国人から、アメリカ人が会話をする時、卓球の試合をしているように思えるという意見が聞かれてきた。1人が球を持ち、それを卓球台の反対の側へと打つ。相手の選手は球を打ち返し、そして試合が続いていく。1人が球を返さなければ、会話は止まってしまう。会話の各部分はこのパターンに則っている。つまり挨拶と会話の開始、話題に関する議論、そして会話の結びと別れの挨拶、いずれもそうなのだ。どちらか1人がしゃべりすぎると、もう1人がいらいらし、相手が会話を独占していると感じる場合もある。▶² 同様に、1人が会話を進行させ続けるのに十分なほど話したり質問したりしない場合は、会話は止まってしまう。

▶1 (第1文) that 節中の when 節, it seems like ...

Some foreigners have observed [that [when Americans hold a conversation,]

S

V observe that ... 「…と述べる」

it seems like they are having a Ping-Pong game].

it seems like ... 「…のように思われる」

▶2 (第7文) enough ～ to do

(Similarly,) [if one person doesn't say enough or ask enough questions

S'

V₁

V₂

to keep the conversation moving,] the conversation stops.

enough to do 「…するのに十分なほど (の～)」 ここでは2つの enough を受けている

☐ foreigner 「外国人」

☐ observe 「～(意見)を述べる:～を観察[順守]する」

☐ greeting 「挨拶」

☐ discussion 「議論, 討議」

☐ topic 「話題」

☐ farewell 「別れ (の言葉[挨拶])」

第2段落

アメリカの「卓球」的な会話の様式と対照的な会話様式の1つの例が、日本人の間でのフォーマルな会話であり、これはボウリングに例えられてきた。日本人の会話のそれぞれの話者は、自分の話す順番を礼儀正しく待ち、そして話すのに適切な時がいつなのかを正確に把握している。すなわち、日本人は列の中での自分の場所をわかっているのである。会話での順番は、地位、年齢、そして相手との関係によって決まる。順番がまわってきたら、その人は慎重に球を転がすのだ。他の人はそれを礼儀正しく見守り、そして列の中の居場所から離れたり、順番を破ったりすることはない。球がボウリングのピンに達するまで、他の者は誰も話をしないのだ。▶3 また、質問に対する答えは、衝動的に口にされるのではなく、注意深く考え抜かれたものである。日本人の会話では、長い沈黙は容認される。アメリカ人にとっては、2、3秒の沈黙でさえ、不愉快なものとなることがある。アメリカ人は、会話の時にとっても難しいことをしていると感じるのは好まないのだ。

▶3 (第8文) rather than ～

Answers (to questions) are carefully thought out, rather than blurted out.

S

V

rather than ～ 「～というよりむしろ」

☐ formal 「正式の, 形式ばった」

☐ politely 「礼儀正しく, 丁寧に」

☐ exactly 「正確に」

☐ that is 「すなわち, つまり」

☐ depend on 「～に依存する:～次第である」

☐ status 「地位, 身分」

☐ relationship to 「～との関係」

☐ out of order 「順番を破って:故障して」

☐ think out ～ 「～を考え抜く」

☐ silence 「沈黙」

☐ tolerate 「～を我慢[容認]する」

☐ second 「秒」

☐ uncomfortable 「心地よくない, 不愉快な」

1. enough を用いた表現

▶ 第①段落 第7文

Similarly, if one person doesn't **say enough or ask enough questions** to keep the
「十分に話したり、質問したりする」
 conversation moving, the conversation stops.

enough は形容詞・副詞のあとに置かれ、〈～ enough to do〉で「十分～なので…できる」という意味でしばしば使われる。enough と不定詞の間に不定詞の意味上の主語が入る場合もある。

He is **kind enough to show** me his notebook.

(彼はノートを見せてくれるほど親切だ。)

That necklace is **cheap enough for me to buy**.

(そのネックレスは私が買えるほど安い。)

enough が名詞を修飾する場合は、〈enough + 名詞〉のように enough のあとに名詞を置くこともできる。

The party won **enough seats to form** a government.

(その政党は、政権を発足させるのに十分な議席を獲得した。)

2. one・another・other のまとめ

▶ 第②段落 第6文

The others watch politely, and do not leave their places in line or take a turn out of order.
「その他の人たち」

one は前に登場した数えられる名詞の繰り返しを避けるために用いられ、「不特定の1つ」を指す。**another・other** は「他のもの」の意味になるが、それぞれ以下のような違いがある。

another : 「(不特定の) もう1つ別のもの【人】」 (an + other)

the other : 「(特定された中の) 残りの1つ【1人】」

the others : 「(特定された中の) 他の全部」

others : 「(漠然と) 他の複数のもの【人】」

This coat is too small for me. Would you show me **another**?

(このコートは私には小さすぎます。別のものを見せてもらえますか。)

Rumi has three children. One is a girl and **the others** are boys.

(ルミには3人子どもがいる。1人は女の子で、残りの2人は男の子だ。)

6 ヒートアイランド現象

問題編 p.18

ヒートアイランド現象は、どのような状況で発生するか？ そしてその影響とは？

- VOCABULARY IN FOCUS** 1. urban 「都市〔都会〕の」 2. temperature 「温度」
3. rural 「農村〔田舎〕の」 4. threat 「脅威」 5. cause 「原因」 6. effect 「効果；影響」

● 解答 正しい
答え をチェック

1 ③

2 ③

3 アスファルトやコンクリートやガラスといった都市の建設材料は、木や草と比べ、太陽の熱をはるかによく保持し、また反射すること。

4 (i) 太陽光を吸収、反射する多くの面を持つこと。(21 字)

(ii) 都市における風の流れを妨げること。(17 字)

5 ②

6 ① × ② × ③ ○ ④ × ⑤ ×

● 解説 考え方 をチェック

1 語法の把握

図解

put the health and welfare (of many urban residents (around the world)) at (ア)
V O C

空所を含む文は、the health and welfare of many urban residents around the world（世界中の多くの都市居住者の健康と福祉）が put の目的語であり、選択肢から判断すると、at 以下はこの目的語の「状態」を表す補語にあたる箇所だと考えられる。4つの選択肢は、「危険」や「悪化」を表す表現であるが、この中で at に続けて用いることができるのは、**at risk**（危険に瀕して；危険な状態で）のみ。よって正解は③。①と②については、in crisis や in danger で「危険な状態で」という意味。④の worse は bad [badly]・ill の比較級。

2 文脈の把握

①「強調される」 ②「生み出される」 ③「取って代わられる」 ④「要求される」

空所以外の箇所から推測される文の意味は、「まず、一般的に言って、この現象は景観中で緑が灰色のものに（イ）時に生じる」である。この First は、前文を受けて「まず最初の原因としては」という内容を表しており、次の they は「ヒートアイランド現象」を指している。また、空所の次の文は In other words で始まっており、この空所を含む文の言い換えになっている点に注目する。すなわち、green は trees and plants を、gray は buildings and pavement を、

それぞれ色で表している。take the place of ～ が「～に取って代わる」という意味なので、空所には③を入れ、**be replaced with** ～（～に取って代わられる）という成句を作ればよい。

3 指示語の把握

For this reason は「この理由により」という意味なので、this は当然、それよりも前の内容を指すが、その範囲については下線部のあとの箇所も参考にして判断する必要がある。下線部のあとは、「天然の土地の覆いを取り除いてしまうことで、都市部でのエネルギーバランスが崩れてしまう」という意味（upset は「～を動揺させる；～を狂わす」の意味）。この部分の理由に該当する箇所が、この直前の文（Urban construction materials ...）で述べられていると考えられる。

天 地

天 地

Urban construction materials (like asphalt, concrete, and glass)

hold and reflect the heat of the sun much better than trees and grass.

V_1	V_2	0	hold と reflect の共通の目的語	「木や草と比べて」
-------	-------	---	------------------------	-----------

For this reason, removing the natural land cover upsets the energy balance

S 動名詞句

V

Q

(in urban areas).

4 内容の把握

下線部の「キャニオン（峡谷）効果」については、この次の文以降で説明されている。まず次の文（Tall buildings provide ...）では、「高層建築物には、太陽光を吸収し、また反射する多くの面がある」ことが、さらにその次の文（At the same time, ...）では、「高層建築物は、都市における風の流れを妨げる」ことが書かれている。それに続く文（Thus, hot air ...）は、その結果、建物間で蓄熱が起けると説明しているので、高層建築物の性質としては、上で説明した2文の内容を解答すればよい。

5 文脈の把握

- ①「曇った」 ②「涼しい」 ③「騒々しい」 ④「温かい」

空所を含む文の意味は、「また、都市の高層建築物は、（ウ）夜の空を見えなくする」である。第③段落では、第1文で「日没後3時間から5時間にかけてヒートアイランド現象の影響が最も強く現れる」と述べられており、続く「夜は非都市部の方が都市部よりもはるかに早く涼しくなる」という第2文の記述に対して、第3文以降でその理由を示している。

空所を含む文は Also（また；さらに）で始まっていることから、第4文は第3文と同じく、日没後の都市部の冷えにくさの原因・理由について説明した文だと考えられる。したがって、空所には②の cool を入れ、夜空の涼しさを高層建築物が遮るため、都市が冷えにくくなるという流れにすればよい。

6 内容の把握

①×「ヒートアイランド現象が発生すると、空気は、地面よりも多く熱を保つ傾向がある。」

第①段落第1文 (An urban heat island ...) に、「UHIとは空気や地面の温度が特に高い場所である」という説明はあるが、空気の方が地面よりも熱を保つという記述は本文にない。

②×「日没後の非都市部の平均気温は、都市よりも5.6℃低い。」

第①段落第3文 (The average temperature ...) に「5.6℃」という記述があるが、これは日没後の平均気温ではなく、また日没後について説明した第③段落にも具体的な温度の記述はない。

③○「ヒートアイランド現象の原因の1つは、人間の活動の結果として放出される熱である。」

第②段落第10文 (Human activity also ...) からこの段落末までの内容に一致する。

④×「非都市部での農家数の減少が、ヒートアイランド現象を引き起こす要因の1つだと信じる人々もいる。」

本文中には、農家の減少やその影響について言及されている箇所はない。

⑤×「ヒートアイランド現象の影響は、夜間よりも日中によりはっきりと観察される。」

第④段落第1文 (The greatest heat island effect ...) で、ヒートアイランド現象の影響は「日没から3～5時間後に最も強く現れる」と書かれている。

● 全訳 英文内容をチェック

第1段落

ヒートアイランド現象 (UHI) とは、空気や地面の温度が特に高くなっている場所を指す。UHIは通常は、人口が極めて多い大都市で発生する。こうした高温区域での平均気温は、隣接する非都市部よりも5.6℃高い。ヒートアイランド現象の中には、地球環境に対する深刻な脅威となっているものもある。またこの現象は、世界中の多くの都市居住者の健康と福祉を危険にさらしている。▶¹ 現在科学者たちは、ヒートアイランド現象の問題と、これに対処する方法を積極的に調べている。

▶ 1 (第6文) 目的語になる how to do

Scientists are (now actively) looking into the problem of urban heat islands

S

V

O₁

and how to deal with them.

O₂ are looking into の2つ目の目的語 「これ (UHI) に対処する方法」

- ☐ occur 「発生する」
- ☐ population 「人口」
- ☐ global environment 「地球環境」
- ☐ welfare 「福祉；幸福」

- ☐ resident 「居住者」
- ☐ look into ～ 「～を調査〔研究〕する」
- ☐ deal with ～ 「～に対処する；～を処理する」

第②段落

ヒートアイランド現象には多くの原因がある。まず、一般的に言って、この現象は景観中の緑が灰色のものに取って代わられた時に生じる。言い換えると、建築物や舗装道路が、木々や草花に取って代わる時に発生するのである。アスファルトやコンクリートやガラスといった都市の建設材料は、木や草と比べ、太陽の熱をはるかによく保持し、また反射する。この理由により、天然の土地の覆いを取り除いてしまうことで、都市部でのエネルギーバランスが崩れてしまうのである。ヒートアイランド現象のもう1つの原因として、いわゆる「キャニオン（峡谷）効果」がある。高層建築物には、太陽光を吸収し、また反射する多くの異なる面がある。同時に、こうした建築物は都市における風の流れを妨げる。

▶ したがって、高温の空気が建築物の間に閉じ込められてしまい、そこでは空気が冷えにくくなる。人間の活動も、こうした高温区域の形成の一因となっている。

▶ 特に、自動車や工場、エアコンからの発熱や汚染は、温度上昇の原因となる。こうした要因すべてが、ヒートアイランド現象を引き起こしている。

▶2 (第9文) 非制限用法の関係詞

(Thus,) hot air is trapped between the buildings [, where it cannot cool easily].

S V ↑

非制限用法の関係詞
(先行詞の内容を補足的に説明)

▶3 (第11文) cause ~ to do 「～に…させる (原因となる)」

(In particular,)

waste heat and pollution cause temperatures to rise. 「温度を上昇させる」
(from cars, factories, and air conditioners)

- ☐ **take the place of** 「～に取って代わる」
- ☐ **material** 「素材；材料」
- ☐ **reflect** 「～を反射〔反映〕する」
- ☐ **remove** 「～を取り去る〔取り除く〕」
- ☐ **provide** 「～を供給〔提供〕する」

- ☐ **surface** 「表面；側面」
- ☐ **absorb** 「～を吸収する」
- ☐ **contribute to** 「～に貢献する；～の一因となる」
- ☐ **factor** 「要因；要素」
- ☐ **give rise to** 「～を引き起こす」

第③段落

ヒートアイランド現象の影響が最も強く現れるのは、日没後 3 時間から 5 時間にかけてである。夜間には、非都市部は都市部よりもはるかに早く涼しくなる。理由の 1 つは、都市の中心部の道路や建築物が、日中の熱の多くを保つからである。また、都市の高層建築物は、涼しい夜の空を見えなくする。その結果、中心街では、晩遅くまで（非都市部よりも）温度が数度高い状態が続く。

▶ 4 (第3文) be 動詞の補語になる that 節

One reason is [that city-center roads and buildings retain much of the daytime heat].
 S V C is の補語となる that 節

- ☐ **retain** 「～を保つ〔保持する〕」
- ☐ **view** 「眺め, 視野」
- ☐ **downtown** 「中心街〔繁華街〕(の)」

- ☐ **remain** 「～のままである」
- ☐ **degree** 「度」
- ☐ **far into the evening** 「晩遅くまで」

1. 〈疑問詞 + to do〉

▶ 第①段落 第6文

Scientists are now actively looking into the problem of urban heat islands and **how to deal with** them.

「～の対処の方法」

- (1) **how to do** 「どのように…したらよいか；…の仕方」

Do you know **how to use** this machine? (この機械の使い方を知っていますか。)

- (2) **what to do** 「何を…したらよいか」

We should discuss **what to do** for the next meeting.

(私たちは次の会議に向けて何をすべきか話し合うべきだ。)

- (3) **when [where ; which] to do** 「いつ [どこで ; どれを] …したらよいか」

Could you tell me **when to start**? (いつ出発したらよいか教えていただけますか。)

※ 〈**what [which] + 名詞 + to do**〉は「**どんな [どの] ～を…すべきか**」の意味。

Let's ask him **which way to go**. (彼にどの道を進むべきかたずねよう。)

2. 〈SVO + to do〉の形をとる代表的な動詞

▶ 第②段落 第11文

In particular, waste heat and pollution from cars, factories, and air conditioners **cause temperatures to rise**.

「気温を上昇させる」

- (1) 〈**want + O + to do**〉 「～に…してもらいたい」

I don't **want you to say** such a thing. (私はあなたにそんなことは言ってほしくない。)

- (2) 〈**tell + O + to do**〉 「～に…するように言う」

The doctor **told me to take** some exercise every day.

(医者には私に毎日運動をするよう言った。)

- (3) 〈**ask + O + to do**〉 「～に…するように頼む」

He **asked his wife to wake** him up. (彼は妻に起こしてもらうよう頼んだ。)

- (4) 〈**allow [permit] + O + to do**〉 「～が…するのを許す」

My parents won't **allow me to buy** a new motorcycle.

(両親は私が新しいオートバイを買うのを許してくれないだろう。)

- (5) 〈**advise + O + to do**〉 「～に…するように忠告する」

Jane **advised him not to go** out. (ジェーンは彼に外に出ないよう忠告した。)

- (6) 〈**force [compel ; oblige] + O + to do**〉 「～に…するよう強いる」

We were **forced to get** out of the room. (私たちは部屋から出ていかされた。)

7 甘いものは疲れをとる？

問題編 p.21

日本人女性の職場での疲労と甘いものの関係、そして疲労防止の有効策とは？



VOCABULARY IN FOCUS

1. consumption 「消費」 2. fatigue 「疲労」 3. survey 「調査」
4. constantly 「絶えず」

● 解答



正しい答えをチェック

① ③

② (絶え間ないコミュニケーションによって) 他の人が何を考えているのか気がかけて、緊張が続く状態。

③ ①

④ (甘いものを食べると、血糖値が) 急激に変動し (、その結果、脳が) 疲れ (て、食べた人は) いらいらする (ようになる。)

⑤ ③

● 解説



考え方をチェック

1

数値を含む内容の把握

調査の内容は、第①～④段落で説明されている。

①「この女性たちの間では、×年齢が上がるにつれて仕事での疲労が強くなるようだった。」

「年齢が上がるにつれて疲労が強くなる」に該当する記述は本文中にない。

②「×調査を受けた人のうち3分の1以上が、仕事で大変疲れを感じると回答した。」

“very tired” と回答した人が 28.3% いたことが第④段落第1文 (The group asked ...) 後半に書かれているが、これは「3分の1」よりも少ないので不適。

③「この女性たちの4分の3以上が、特に午後遅くの1時間の間に、仕事で疲れを感じていた。」

「4分の3以上が、午後遅くの1時間の間に疲れを感じた」の部分が、第③段落第2文の前半と一致する。「午後遅くの1時間」は「午後4時から5時の間」を言い換えたもの。

④「調査を受けた人の80%近くが、×何を食べたかに関係なく疲労に苦しんでいた。」

第①段落と第④段落から、女性たちは甘いものを食べていたとわかるので、「何を食べたかに関係なく」は不適。

2

内容の把握

下線部に続く第⑥段落では、コミュニケーションが以前からどのように変化したかについて述べられており、下線部の communication fatigue (コミュニケーション疲れ) については第3文 (They remain ...) に具体的な内容がある。remain は後ろに補語をとり「～のままである」という意味。worrying about what others are thinking は「理由」を表す分詞構文である。

They remain tense, [worrying about what others are thinking]

S

V₁

C

理由を表す分詞構文

what 以下は about の目的語

and appear to be chronically fatigued.

V₂

appear (to be) C 「～だと思われる：～に見える」

3 文脈の把握

- ①「かつては、夜に話をする相手は家族の者だけだった」
- ②「コミュニケーションは人の心の健康によいということが証明されている」
- ③「仕事で疲労する人は、家庭でのコミュニケーションを避ける傾向がある」
- ④「コミュニケーションの量は、過去 10 年間で大幅には変わっていない」

空所に続く第⑥段落第 2 文（“Now, people ...”）では、現代人が絶えず、夜遅くまでコミュニケーションをとっていることを説明している。この文の冒頭が Now であることから、空所にはこの第 2 文と対比される内容の、過去のコミュニケーションについて述べた①を入れるのが文脈上最も自然である。

②は、現代のコミュニケーション疲れについて述べた、そのあとの文と矛盾する。③の仕事の疲れと家でのコミュニケーションの関係は本文にない。④のコミュニケーションの量については、むしろ増えていると考えられ、不適。

4 内容の把握

二重下線部の現象、つまり「甘いものの摂取が疲労を強める」という現象のメカニズムは、具体的には第④段落で説明される。blood sugar levels（血糖値）に関する最初の空所には、fluctuate sharply（急激に変動する）に該当する記述が入る。2 つ目の空所では、血糖値の変動の結果、脳に起こること、つまり同段落第 3 文の Their brain becomes tired が示す疲れについて書けばよい。そして 3 つ目の空所では、甘いものを食べた人に起こる反応として、which makes them jittery の内容、つまり「いらいらする」ことについて答えるのが適当である。

5 内容の把握

- ①「日本人の食習慣は、私たちが他者とどうコミュニケーションをとるかに 直接的な影響を及ぼす。」

食習慣がコミュニケーションに及ぼす影響については本文中に記載がない。なお甘いものと絶え間ないコミュニケーションは、本文中でいずれも疲労の要因として挙げられている。

- ②「日本人は、従来、砂糖と炭水化物を多く含む食品を好んできた。」

第⑥段落第 1 文に「近年、砂糖と炭水化物を豊富に含む食品を多くの人が摂るようになった」とあり、一方、従来日本人がそうした食べ物を好んできたという記載はない。したがって、この選択肢は不適である。

③「疲労を取り除きたいのであれば、適切な量のたんぱく質を摂るようにすべきである。」

第⑨段落の内容に一致する。なお、get rid of ～ は「～を取り除く」の意味。

④「奥田氏は、バランスのとれた食事は、×運動と同様に働く人の健康に有益であると主張した。」

第⑦段落と第⑨段落から、バランスのとれた食事が健康上有益であるとわかるが、奥田氏の主張として「運動と同様に有益」という記述は本文中にはない。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

▶¹ 仕事に疲労を感じるようになるという日本の働く女性の約 80%が、甘いものを摂ると実際には疲労が増すにもかかわらず、お菓子を食べている。

▶ 1. (第1文) 関係代名詞による主語の修飾

About 80 percent of Japanese working women eat confections,
 S ↑ [who grow tired on the job] V O
(even though consumption of sweets (actually) spurs fatigue).
 「～にもかかわらず」 S' V' O'

☐ on the job 「仕事で〔に〕」

| ☐ actually 「実際に；本当のところは」

第②段落

これらは、健康に関する教育と意識の促進に携わる団体である血めぐり研究会が、洗剤や化粧品、健康食品、女性・幼児ケア商品のメーカーである花王の支援により実施した調査の結果である。

☐ finding(s) 「発見したこと、研究〔調査〕結果」

| ☐ promote 「～を促進〔推進〕する」

☐ conduct 「～を実施する」

| ☐ awareness 「意識；認識」

☐ be involved in ～ 「～に従事する〔携わる〕」

| ☐ with the support of ～ 「～の支援を受けて」

第③段落

▶² この団体が、20代から40代の女性1,000人を対象に、仕事に疲労を感じるかと質問したところ、77.7%が疲労を感じており、特に午後4時から5時の間が疲労のピークの時間帯であるということが明らかになった。そして「大変疲れる」と答えた女性は28.3%、「疲れる」と答えた女性は49.4%であった。

▶2 (第1文) 他動詞の目的語となるif節

The group asked 1,000 women (in their 20s to 40s) if they became tired (while working)
 S V₁ O O if「～かどうか」
 and learned (that 77.7 percent did),
 V₂ O = became tired while working
 (particularly during the peak period between 4 and 5 p.m.)

第4段落

▶3 彼女たちは、甘いもの、すなわち職場に置かれることが最も多いお菓子に手をのばし、そして単に気分転換のために、これを口にしていた。

▶3 (第1文) 同格、直前の名詞を修飾する過去分詞句

They reached for sweets — the snack (most often found at the workplace) —
 S V₁ 同格 the snack を修飾する過去分詞句 and ate them ...
 V₂

☐ reach for「～に手をのばす」

☐ workplace「職場」

☐ for a change of pace「気分転換に；ペースを変えるために」

第5段落

▶4 調査対象となった女性の80%近くが日常生活で疲れを感じていることに注目し、作家であり精神科医である奥田弘美氏は、考えられる理由として「コミュニケーション疲れ」を挙げた。

▶4 (第1文) doing形で始まる分詞構文

[Noting that nearly 80 percent of the women (surveyed) got tired in their daily lives,]
 分詞構文 S' V' C'
 writer and psychiatrist Hiromi Okuda cited "communication fatigue" as a possible reason.
 S 同格 V O 「～として」

☐ note that「…ということに注目する〔気づく〕」

☐ cite「～を引用する；～に言及する」

☐ possible「可能性がある；考えられる」

第6段落

奥田氏はこう述べている。「かつては、夜に話をする相手は家族の者だけでした。今や、人々は携帯電話やその他の機器を用いて絶えずお互いに話をし、真夜中までコミュニケーションをとり続けます。他の人が何を考えているのか気にかけて、緊張した状態が続き、そのため慢性的に疲労していると思われる。」

☐ one another「お互い」

☐ device「機器；装置」

☐ tense「緊張して」

☐ appear to be「～のように見える」

1. as の用法のまとめ

▶ 第⑤段落 第1文

Hiroimi Okuda cited "communication fatigue" **as** a possible reason
 「考えられる理由として」

▶ 第⑨段落 第1文

suggesting they eat meat, fish, eggs or tofu **as** a main dish at least twice a day
 「主菜として」

as は前置詞（～として）の他に、接続詞として用いられる。以下が主な用法である。

(1) '状態' 「…するように」

The students did it **as** they were told to do it.
 (生徒たちはそれを言われるようにやった。)

(2) '比例' 「…するにつれて」

As we got to know each other, we became good friends.
 (お互いのことを知るにつれて、私たちは仲のよい友だちになっていった。)

(3) '譲歩' 「～であるけれども」 (= though)

Young **as** she is, Risa leads that company.
 (リサは若いけれど、その会社を率いている。)

(4) '理由' 「～なので」 (= because, since)

As I didn't have change, I couldn't buy a drink.
 (小銭を持っていなかったなので、飲み物を買えなかった。)

(5) '時' 「…する時；…する間」 (= when, while)

As I entered the room, everyone appeared suddenly.
 (私が部屋に入っていた時、みんなが突然現れた。)

2. 関係代名詞の非制限用法

▶ 第⑧段落 第3文

Their brain becomes tired, **which** makes them jittery.
 「脳が疲労してしまい、そのために彼らはいらいらしてしまう」

関係代名詞の非制限用法では、先行詞のあとにカンマ (,) を置く。非制限用法は、先行詞を制限するものではなく、関係代名詞節の内容は先行詞に関わる補足情報である。

He has two sons **who** work at a bank. (⇒制限用法)
 (彼には銀行で働いている2人の息子がいる。)

He has two sons, **who** work at a bank. (⇒非制限用法)
 (彼には息子が2人おり、その息子たちは銀行で働いている。)

8 選択に関わる文化の違い

問題編 p.25

日本のレストランでの筆者の経験から考える、日米の文化の違いとは？ その違いの根幹にある考え方とは何か？

● 解答 正しい
答え をチェック

- 1 自分が文化の違い、さらには誤解を経験するだろうということはわかっていたが、それらは私が最も予期しなかった場合に現れることが多かった。
- 2 one does not drink green tea with sugar
- 3 ③
- 4 (アメリカ人の観点では、) お金を払う客が個人的な好みに基づいて妥当な要求をする場合は、その好みを叶えてもらう権利がある。(47 字)
- 5 ②
- 6 ① × ② ○ ③ × ④ ○

● 解説 考え方 をチェック

1 文構造の把握

図解

I knew [(that) I would experience cultural differences, even misunderstandings,]
 S₁ V₁ 以下 knew の目的語 「文化的な違い、さらには誤解」
 but they often popped up (where I least expected them).
 S₂ V₂ where は接続詞 (…する場合に)

答案作成上のポイント

- I knew の目的語になる節にある助動詞 would は、ここでは「(過去の時点での) 推量」を表す。
 - misunderstandings は文脈から「文化の違いによる誤解」と考えることができ、これも experience の目的語である。even は「～さえ [すら]、それどころか」という意味。
 - but 以下について、they は cultural differences, even misunderstandings を指す。最後の them も同様。
 - where は接続詞で「…するところで […する場合に]」という意味の副詞節を導く。
 - least は little の最上級であり、「最も少ない；最も～でない」という意味を持つ。ここでは expect (～を予期 [予想] する) と合わせて、「最も予期していなかった」と訳すとよい。
- 語句 ・ pop up 「(不意に) 現れる」

採点のポイント

配点 10 点

- ① I knew I would experience cultural differences, even misunderstandings,
(4 点)
② but they often popped up where I least expected them.
(6 点)

- ① I knew I would experience cultural differences, even misunderstandings, 「自分が文化の違い、さらには誤解を経験するだろうということはわかっていたが、」 (4 点)

→ 構文理解

even misunderstandings が experience の目的語だととらえられていない場合は -4 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

→ I would experience cultural differences の訳 (2 点)

(×) 「文化的な違いを経験したものだった」 would が「(過去の時点での) 推量」と理解していない

- ② but they often popped up where I least expected them. 「それら (文化の違いや誤解) は私が最も予期しなかった場合に現れることが多かった。」 (6 点)

→ 構文理解

where が接続詞であることがとらえられていない場合は -6 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

→ where I least expected them の訳 (3 点)

(○) 「思いがけない場合に」 least expected (最も予期しなかった) を言い換えた形

2 文脈の把握

空所を含む文の My request (私の要求) とは、具体的にはその直前までに述べられている「緑茶に砂糖を入れて飲みたい」というレストランでの筆者の要求のことである。ここでの meet は「～(要求・期待など)に応じる；～を叶える」の意味。前置詞 with は「～とともに」の意味を持つので、筆者の要求がどのようにに対応されたかが with 以下の内容からわかる。an even more courteous version of the same explanation は「同じ説明のより丁寧なバージョン (= 同じ説明をより丁寧にしたもの)」という意味であり、コロン (:) でつながれた空所にはこの the same explanation を具体的に述べた表現が入ると考えられるので、これより前の部分から店の対応にあたる内容を探せばよい。

前の部分にさかのぼってみると、第 4 文 (After a pause, ...) に「(緑茶と砂糖と一緒に注文しようとする筆者に対して) ウェイターは、緑茶には砂糖を入れて飲みませんと丁寧に説明した」と書かれている。空所を含む文ではこの対応が繰り返されたと考えられるので、空所に入るのは第 4 文にある one does not drink green tea with sugar である。

3 文脈の把握

- ①「実際は、私は彼らが私にコーヒーを持ってくると期待していなかった。」
- ②「砂糖がないので、私はコーヒーをブラックで飲まなくてはならなかった。」
- ③「カップの受け皿には砂糖の包みが2袋載っていた。」
- ④「驚いたことに、彼らは私にコーヒーと一緒に緑茶を出したのだ。」

筆者のレストランでの体験の結末を問う設問である。まずは、②で扱った空所()以下の流れを確認しよう。第7文(While I understood, ...)からは、変わらず砂糖入りの緑茶が飲みたいと主張する筆者に対し、ウェ이터に相談された支配人は「砂糖がない」という説明をしたと述べられている。自分の要求が叶えられないと悟った筆者が諦めてコーヒーを頼むと、すぐにウェ이터がコーヒーを持ってきたという流れである。

この流れを受けて、この話の「オチ」として最もふさわしいのは何かを考える。「砂糖がない」という説明はレストランが筆者に要求を諦めさせるための口実であったということが読み取れるかが解答のポイントとなる。よって、答えは③。③は倒置構文になっている点に注意。通常の語順の場合よりも、文頭に出る部分が強調された表現である。

図解

Resting on the saucer were two packets of sugar.

倒置が起きている

V

S

= Two packets of sugar were resting on the saucer.

4 内容の把握

下線部の how views on choice vary by culture とは「選択についての考え方が文化ごとにいかに異なっているか」という意味であり、これに続く第2～3文でアメリカ、日本での選択についての考え方が筆者の体験と関連づけて示されている。perspective とは「見方、視点」という意味で、From the American perspective は「アメリカ人の観点から見ると」という意味となる。この設問では第2文の内容をまとめて解答すればよい。

a paying customer は「金を払う客」という意味。make a reasonable request とは「妥当な〔分別のある〕要求をする」、また based on one's personal preferences は「個人的な好み〔嗜好〕に基づいて」という意味。when a paying customer ... personal preferences まですで「金を払う客が個人的な好みに基づいて妥当な要求をする場合は」という意味となる。

そのあとの has every right to ... は、have right to do を強めた表現で「…する十分な権利がある」の意味。have those preferences met は「使役」を表す〈have + O + 過去分詞〉(…してもらふ〔させる])の用法であり、meet は②と同様「～を叶える」の意味なので「その好みを叶えてもらう」という日本語になる。前半部分とまとめると、「客が代金を払う限りは、その個人の好みに基づいて妥当な要求を行った場合、その客は好みを叶えてもらう十分な権利を有する」という内容となる。

採点のポイント

▶ 要点理解

- ①「金を支払う客が、個人的な好みに基づいて妥当な要求をする場合」(6点)
 (○)「客が金を払う限り」 (○)「客が金を払うのであれば」
 ②「客は好みを叶えてもらう権利を(十分に)有する」(6点)

▶ 字数制限 (全体から減点)

- (×) 39 字以下, 51 字以上のもの (-2 点)

5 内容の把握

図解

(While there are numerous differences
 ‘読歩・対照’ (…だが、一方で～) (between these two cultures, or indeed any two cultures),
 or による並列 (ともに between につながる)
 one particular cultural feature has proved especially useful for understanding
 S V C useful for ~ 「～の役に立つ」
 (how the ideas and practice of choice vary (across the globe)):
 understanding の目的語になる名詞節 how S V 「いかに(どのように) …か」
 the degree of individualism or collectivism.
 one particular cultural feature と同格

下線部は「この2つ(アメリカと日本)の文化間には、いや実際のところあらゆる2つの文化間には、数多くの違いがあるが、選択に関する考え方やその実践が世界中でいかに異なっているかを理解するのに、ある特定の文化的特徴、すなわち個人主義や集団主義の程度が特に役立つことが判明した」という意味となる。any two cultures は「(日米の文化だけでなく)いかなる2つの文化(も)」の意味。

文の主旨を理解する上で重要なポイントは、one particular cultural feature (ある特定の文化的特徴) が文末の the degree of individualism or collectivism (個人主義や集団主義の程度) により具体的に言い換えられているという点である。individualism はここではアメリカに見られるような個人の意向を重視する選択の方法、collectivism は日本的な集団[社会]が認める基準を重視する選択の方法を示している。つまり「個人または集団をどの程度重視するか」という文化的特徴は、選択に関する考え方やその行われ方の多様性を理解する上で役立つというのがこの部分の主旨となる。この内容に最も近い選択肢は②である。

①は「この(個人主義と集団主義の程度)の差は日米間で最も顕著に現れる」の部分が、③は「世界的に見ても珍しい明確な対比をなしている」の部分が誤り。④は「文化間に存在する違いをなくし均質化していく」という内容が下線部には述べられていないので不適となる。

6 内容の把握

- ①×「筆者は、自分が砂糖入りの緑茶を飲みたいと主張した時に、日本の習慣を知らなかったことを、今では恥ずかしく思っている。」

第①段落第5文 (I responded ...) から、筆者は日本では緑茶に砂糖を入れて飲まないことを知っていたとわかる。さらに、それを知らなかったことを恥ずかしいと思うという記述は本文中にない。

- ②○「砂糖入りの緑茶がほしいという筆者の要求を、レストランは筆者がその考えを諦めるまで、少なくとも3度断った。」

第①段落でウェ이터が2度、支配人が1度断っているので、「少なくとも3度」という内容は本文に一致する。

- ③×「筆者はレストランでの経験に不満を抱き、日本人の友人たちに砂糖入りの緑茶がおいしいということを納得させようと試みた。」

第②段落第1文の My failed campaign ... は「砂糖を緑茶と一緒にしてもらおうとレストランに働きかけたが失敗したこと」を指しており、「友人たちを納得させようとした」という記述は本文にない。

- ④○「筆者は、レストランのウェ이터は彼女が文化的に不適切なことをするのを阻止しようとしていたのだと考えるようになった。」

第②段落第3文 (From the perspective ...) の後半の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

▶¹ 1995年に私は日本の京都で数カ月を過ごした。地元の一家庭と暮らしながら、文化社会心理学分野の草分けの1人である北山忍氏とともに、博士論文のための研究をしていた。自分が文化の違い、さらには(文化的な)誤解を経験するだろうということはわかっていたが、文化の違いや誤解は、私が最も予期しなかった場合に現れることが多かった。そうした文化の違いの中で最も驚くべきものは、おそらく、私がレストランで砂糖入りの緑茶を注文した時のことだったかもしれない。ウェ이터は、少し間をおいて、緑茶には砂糖を入れて飲みませんと丁寧に説明した。▶² 私は、ええ、その習慣は知っていますが、私はお茶を甘くして飲むのが好きなのですと返答した。私のこの要求に対して返ってきたのは、「緑茶には砂糖を入れて飲みません」という同じ説明をより一層礼儀正しくしたものだった。▶³ 私はウェ이터に、日本人が彼らの緑茶に砂糖を入れないことは理解していますが、それでも私は私の緑茶に砂糖を入れたいのですと伝えた。そうして説得に挫折したウェ이터は、支配人とその問題を相談し、2人は長々と話を始めた。ようやく支配人は私の方にやって来て、こう言った。「大変申し訳ありません。只今、砂糖を切らしております。」希望通りの緑茶が頼めないのも、私は注文をコーヒーに変更し、ウェ이터はすぐにコーヒーを持ってきた。カップの受け皿には砂糖の包みが2袋載っていた。

▶ 1 (第 1 文) 複雑な構文の理解

(In 1995,) I spent several months (in Kyoto, Japan,) / living with a local family /
S V O 分詞構文
[while I did research (for my PhD dissertation)
with Shinobu Kitayama, one of the founders of the field of cultural social psychology].

同格

▶2 (第5文) SVOC 構文

I responded [that yes, I was aware of this custom, but (that) I liked my tea sweet].

that 以下が目的語 like O C 「O が C であるのを好む」

▶3 (第7文) 節の中の従属節

[While I understood, / I told him, /
主節を修飾する副詞節 I told him が挿入されている = I told him (that) while I understood that ...
〔that the Japanese do not put sugar (in their green tea)〕,
understood の目的語になる that 節
I would still like to put some (sugar) (in my green tea).
their = 「日本人」に対し、ここでの my は「外国人である筆者」]

- | | |
|--|--|
| ☐ local 「その土地の，地元の」 | ☐ take up ～ 「～を取り上げる」 |
| ☐ PhD (Ph.D.) 「博士 (号)」 | ☐ lengthy 「長い，長つたらしい」 |
| ☐ founder 「創始者」 < found Ⅲ 「～を創設する」 | ☐ bring over ～ 「～を (遠くから) 持ってくる」 |
| ☐ psychology 「心理学」 | ☐ saucer 「受け皿，小皿」 |
| ☐ respond 「～と返答 [応答] する」 | ☐ packet 「小さな包み [袋]」 |
| ☐ be aware of ～ 「～を知って [意識して] いる」 | |

第2段落

1 杯の甘い緑茶を得るための私の働きかけは失敗に終わったが、話としては楽しめるものである。だが一方でこのことは、選択についての考え方が文化ごとにいかに異なっているかを簡潔に示すものでもある。アメリカ人の観点から見れば、お金を払う客が個人的な好みに基づいて妥当な要求をする場合は、客はその好みを叶えてもらう十分な権利を有する。[▶] だが日本人の観点から見ると、私が希望した緑茶の飲み方は、受け入れられている文化的な基準に照らしてひどく不適切なものであり、接客係は私がこうしたひどい不作法を犯すのを阻止しようとしていたに過ぎなかった。この状況の表層を掘り下げてみると、アメリカと日本の文化を比較する際、これに類似した個人の選択が社会的な影響かというパターンを、家庭生活や職場、さらに潜在的に他のすべての生活の側面において見出すことができる。この2つの文化間には、いや実際のところあらゆる2つの文化間には、数多くの違いがあるが、選択に関する考え方やその実践が世界中でいかに異なっているかを理解するのに、ある特定の文化的特徴、すなわち個人主義や集団主義の程度が特に役立つことが判明したのだ。

▶4 (第3文) prevent O from *doing*

(From the perspective of the Japanese) /, however, /

the way [I liked my tea] was terribly inappropriate

S₁ the way S V ... の形

V₁

(according to accepted cultural standards,)

according to ~ 「～によると、～に従い」(ここでは「基準に照らして」)

and the waitstaff was simply trying to prevent me from making such an awful faux pas.

S₂

V₂

prevent O from *doing* 「O が…するのを妨げる；O に…させない」

- ☐ campaign for ~ 「～を求める運動」
- ☐ make for ~ 「～を生み出す〔に役立つ〕」
- ☐ serve as ~ 「～として役立つ；～の役割を果たす」
- ☐ vary 「変わる，異なる」
- ☐ reasonable 「合理的な，妥当な」
- ☐ preference 「嗜好，好み；優先」
- ☐ terribly 「ひどく，おそろしく」
- ☐ inappropriate 「不適切〔不適當〕な」
- ☐ standard 「基準，標準」
- ☐ waitstaff 「給仕人，接客係」(集合名詞)

- ☐ awful 「ひどい，おそろしい」
- ☐ potentially 「潜在的に」
- ☐ numerous 「たくさんの，多数の」
- ☐ feature 「特徴」
- ☐ prove (to be) ~ 「～だと判明する〔証明される〕」
- ☐ practice 「実践；習慣；練習」
- ☐ globe 「地球；世界」
- ☐ individualism 「個人主義」
- ☐ collectivism 「集団主義」

Unit 3

9 明かりによって見えなくなるもの

問題編 p.29

夜間の明かりと星の見え方にはどのような関係があるか？ さらに、人や生き物への影響とは？

- VOCABULARY IN FOCUS** 1. light「光:明かり」 2. pollution「汚染」 3. visible「目に見える」
4. solution「解決(法)」 5. preserve「～を保つ〔保護する〕」

● 解答 **正しい答え** をチェック

1 ③

2 ②

3 3人に1人の割合の、大都市やオフィスビル、ショッピングセンターの明かりから遠く離れて暮らしている人々。

4 ウミガメが、産卵するための暗い場所を見つけるのが困難になった。(31字)

【別解】 暗い浜辺に巣を作るウミガメが、産卵場所を見つけるのが困難になった。
(33字)

5 こうしたあらゆる理由により、研究者たちは本当に必要な時に本当に必要な場所でのみ夜間の明かりを使用する方法の研究に取り組んでいる。

6 ③

7 ④

● 解説 **考え方** をチェック

1 語法の把握

①「～に関する限り」 ②「～を用いて」 ③「～のことにすると」 ④「～しようと努力して」

①の as far as は **as far as S V** の形をとる。また、④ in an effort to は to のあとに原形の動詞が続く。空所(ア)の直後にある looking という動名詞を導く形をとるのは②と③のみ(③ when it comes to の to は前置詞なので、あとに続くのは原形の動詞ではなく名詞または動名詞)。②は文脈に合わないので、③が正解である。

2 文脈の把握

①「～を調整する」 ②「～を減らす」 ③「～を高める」 ④「～を操作する」

空所(イ)を含む文の意味は、「光は、恒星、惑星、さらに銀河といった人生で最も素晴らしい光景を見る我々の能力(イ)となる。また空所(ウ)を含む文の recalls 以下の意味は、「そう回想するのは、光害(ウ)のための活動をしている団体、国際ダークスカイ協会のロバート・гентだ」である。各選択肢の意味を文脈にあてはめて考えてみると、この2つの空所に入れるのに最も適当な選択肢は②。なお reduce は、前者では「能力を弱める」、後者では「光害を減らす」という意味になる。

3 内容の把握

「銀河を自分の目で見ることができる人々」については、第②段落の第3～4文で説明されている。まず第3文冒頭から、割合は「3人に1人」(Only one in three people)であることがわかる。第4文の Those lucky people はこの「(3人に1人の) 銀河を自分の目で見ることができる幸運な人たち」のことを指している。第4文の中で、それらの人は「大都市やオフィスビル、ショッピングセンターの明かりから遠く離れて住んでいる」とあるので、これらの2点を組み合わせて解答を作成すればよい。

4 内容の把握

光害 (light pollution) の野生動物への影響については、第④段落の第1文で初めて言及されている。具体例として、次の第2～3文でウミガメ (sea turtles) の話が述べられている。解答を作成する上では、「産卵のための巣作りに必要な暗い場所を見つけるのがより難しい」という点がポイントとなる。lay eggs は「産卵する」の意味。

図解

(As a result of increased light,) as a result of ～「～の結果として」

they will find it more difficult to find a dark place to lay eggs.

= sea turtles



find O C (O が～だとわかる) の it は形式目的語で、後ろの to find a dark place ... の内容を受ける

5 文構造の把握

図解

(For all these reasons,) researchers are working on ways to use nighttime lights

S

V



形容詞用法の不定詞

[only when and where they (= nighttime lights) are truly needed].

when と where が並列されている 「本当に夜の明かりが必要な時に、本当に必要な場所でのみ」

答案作成上のポイント

- For all these reasons は「これら[こうした]あらゆる理由により」の意味。ここでの these は直前の文で述べられている「夜の明かりが人間の睡眠やストレスの程度に影響を与えうる」という内容の他、第④段落で述べられる野生動物への影響などを指す。
- work on ～ は「～に取り組む; ～を研究する」の意味。ここでは ways (方法) が続き、「方法を研究する」の意味となる。具体的な内容は to use 以下に示されている。この部分は直前の名詞を修飾する形容詞用法の不定詞。
- only when and where の部分は接続詞が2つ並んだ形。それぞれ they are truly needed の部分を共有している。

語句 ・ researcher 「研究者」 ・ truly 「本当に」

6 内容の把握

- ①「ロバート・гентは、現代の子供たちが、夜空を見ることにあまり関心を示さないのはとても残念だと感じている。」

第①段落第4～7文にгент自身の子供時代の話と現代の子供について述べられている。第7文(“Now in most big cities ...”)から、子供の関心の有無ではなく環境的に夜空の星が見えないことが問題だとわかる。

- ②「もしも人工的な明かりがなかったら、都市からは、10 倍の数の星を見ることができるだろう。」

第②段落第1文(Normally, ...)で、本来肉眼で見ることでできる星の数が約2,500個であること、第2文で実際に見える星が都市では1ダース未満であることがわかるので誤り。

- ③「光害を制限するための何らかの種類の手段をとっている市や町が少なからずある。」

第③段落第3文(Many cities and towns ...)の内容に一致する。

- ④「過度の光が人の健康に及ぼす有害な影響を、一般の人がだんだん認識するようになっている。」

第⑤段落第1文(Scientists are now ...)で科学者たちが光害による人の睡眠やストレスへの影響に注目していると書かれているが、一般の人の認識についての言及はない。

7 大意の把握

- ①「国際ダークスカイ協会」 ②「夜空の美」 ③「郊外での光害」 ④「光害の悪影響」

第①～③段落では明かりにより星が見えにくくなる問題について、そして第④段落は野生動物への影響について、最後の第⑤段落は人間への影響や研究の現状について説明している。したがって、これらをまとめたタイトルとして最も適当なのは④である。なお、③については、第②段落から光害が郊外よりも都市で重大な問題であるといえるので、英文の主題を表すタイトルとしてはふさわしくない。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

通常は、光は人がものをよりよく見るための助けとなる。だが夜空の星を見ると、光は実際には一種の公害となる。光は、恒星、惑星、さらに銀河といった人生で最も素晴らしい光景を見る我々の能力を弱めてしまう。▶「私は幼い頃、夜空を見るのが大好きでした。」そう回想するのは、光害を減らす活動をしている団体、国際ダークスカイ協会のロバート・гентだ。「星でいっぱいの空の驚くべき美しさを見上げていたのを覚えています。その驚くべき美しさゆえに私は天文学者になったのです」と彼は述べる。「今、ほとんどの大都市では、子供たちは、私が見ていたように星を見ることができないのです。」

▶1 (第4文) 主語・動詞の倒置

"[When I was young,] I loved looking at the night sky,"

recalls Robert Gent of the International Dark-Sky Association,

V S 倒置が起きている

同格

an organization (working to reduce light pollution).

「光害を減らすために活動している」

☐ sight 「景色, 視界; 視力」

☐ planet 「惑星」

☐ association 「協会; 提携」

☐ organization 「組織, 団体」

☐ amazing 「驚くべき」

☐ be filled with ~ 「～で満たされた」

第2段落

通常は, 約2,500もの個別の星を特別な装置をいっさい使わなくても目で見ることができる。

▶2 しかし光害のため, 今日の郊外では実際にはわずか200から300個の星しか見ることができず, 典型的な都市では1ダースを下回る数しか見ることができない。私たち自身の(住む地球を含む)銀河である, 驚くべき天の川を肉眼で見ることができる人は3人に1人に過ぎない。その幸運な人たちは, 大都市やオフィスビル, ショッピングセンターの明かりから遠く離れて住んでいる。

▶2 (第2文) 共通部分の省略

(Because of light pollution,) / however, /

because of ~ 「～のせいで」

you actually see just 200 to 300 from today's suburbs,

and (you see) fewer than a dozen from a typical city.

郊外から見える星の数と都市から見える星の数を対比している

☐ normally 「通常は; 正常に」

☐ individual ㊦「個別の, 個人の」㊧「個人」

☐ equipment 「機器, 装置」

☐ suburb 「郊外」

☐ dozen 「1ダース, 12個」

☐ typical 「典型的[代表的]な」

☐ naked eye 「肉眼[裸眼]」

第3段落

幸いにも, ▶3 お金もかからずすぐに効果が得られる解決法があるとгентは言う。「もっと弱い光を使うようにし, それを上ではなく下に向けるならば, 莫大なエネルギーを節約でき, 同時に夜空の美しさを保つことができます。」実際に多くの市や町が, 夜間の明かりを制限する法律を制定している。

▶3 (第1文) 並列関係を含む関係代名詞節

there is a solution (that is inexpensive and has benefits right away,) / says Gent



a solution を先行詞とする関係代名詞節

V S

☐ fortunately 「幸いにも, 幸運なことに」

☐ inexpensive 「お金がかからない, 安価な」

☐ benefit 「利益」

☐ right away 「すぐに」

☐ point 「～を向ける」

☐ save 「～を節約する[とっておく]」

☐ enormous 「莫大な」

☐ indeed 「実際に, 本当に」

第④段落

また、自然のものではない夜間の明かりが野生動物に影響を及ぼす可能性があることも、研究で明らかになっている。例えば、ウミガメは巣を作るために暗い浜辺を必要としており、明るく照らされた場所を避ける習性がある。光が増えた結果、ウミガメが産卵するための暗い場所を探すのは、より難しくなっている。

☐ research 「研究」

☐ nighttime 「夜間 (の)」

☐ affect 「～に影響を及ぼす」

☐ wild animal 「野生動物」

☐ nest 「巣」

☐ avoid 「～を避ける」

☐ brightly lit area 「明るく照らされた場所」

☐ lay 「～を置く；～(卵)を産む」

第⑤段落

▶4 科学者たちは現在、夜間の過度の光が人間の睡眠パターンやストレスの程度にも干渉しているかどうか考えている。こうしたあらゆる理由により、研究者たちは本当に必要な時に本当に必要な場所でのみ夜間の明かりを使用する方法の研究に取り組んでいる。

▶4 (第1文) 目的語となる whether 節

Scientists are now wondering [whether too much light at night

S

V

以下目的語

S'

may even interfere with human patterns of rest and stress levels].

V'

「人間の睡眠パターンやストレスの程度」 with の目的語

☐ wonder 「…かなと思う」

☐ interfere with ～ 「～を妨げる」

☐ rest 「休息、睡眠」

☐ level 「水準；程度」

☐ work on ～ 「～に取り組む；～を研究する」

1. 比較級を用いた代表的な表現

▶第②段落 第2文

Because of light pollution, however, you actually see just 200 to 300 from today's suburbs, and **fewer than a dozen** from a typical city.

「1 ダースよりも少ない(数の星)」

比較を用いた表現にはさまざまなものがあるが、ここでは「数量」を表すのに使われる比較級を用いた2つの重要表現を扱う。

(1) **no more than** ～ 「～しか；わずか～」(≒ only)

Nao had **no more than** three comic books.

(ナオは3冊しかマンガ本を持っていなかった。)

(2) **no fewer [less] than** ～ 「～もの」(≒ as many [much] as)

He sent **no fewer than** three hundred letters to his wife.

(彼は妻に向けて300通もの手紙を送った。)

※ それぞれ **not more than** ～ (せいぜい) や **not less than** ～ (少なくとも) と混同しないよう注意すること。

Not more than five people bought that book. (せいぜい5人の人がその本を買った。)

I jog for **not fewer than** twenty minutes every morning.

(私は少なくとも毎朝20分はジョギングする。)

2. 倒置

▶第①段落 第4文

"When I was young, I loved looking at the night sky," **recalls Robert Gent** of the International Dark-Sky Association

「ロバート・гентは回想する」

通常、平叙文では〈主語＋(助)動詞〉の語順になるが、強調などのためにこの原則的な語順が変わる場合を倒置と呼ぶ。上に示した本文のような直接話法の中の倒置以外では、以下の場合に倒置が起こる。

(1) **否定を表す語(句)を文頭に置いた倒置**

Never have I seen such a wonderful sight.

(そんなに素晴らしい景色を私はこれまでに見たことがない。)

Little did I know she had been involved in the accident.

(彼女が事故に巻き込まれたなんて少しも知らなかった。)

(2) **補語を文頭に置いた倒置**

Lucky was the man who married her. (彼女と結婚したその男性は幸運だった。)

(3) 場所・方向を表す副詞（句）を置いた倒置

At the end of our street is a large park.

(通りの端に大きな公園がある。)

※ so, neither, nor を用いて、先に述べられた内容に対しての肯定・同意を表す場合、**〈so + 動詞 + 主語〉**, **〈neither [nor] + 動詞 + 主語〉** の形になる。

I passed the exam and **so did Kumi**. (私は試験に合格したが、クミもそうだった。)

"I seldom watch movies." "**Neither [Nor] do I.**"

(「私はめったに映画を観ません。」「私もそうです。」)

10 嘘はいいこと？

問題編 p.33

小さな子供が嘘をつくのは、重要な成長の一段階だという考え方がある。嘘をつく時、子供の心で起きていることは？



VOCABULARY IN FOCUS

1. lie 「嘘（をつく）」 2. mental 「心の」 3. development 「発達」
4. intelligence 「知能」 5. reaction 「反応」 6. hurt 「～を傷つける」

解答 正しい答え をチェック

- 1 嘘のつき方を習得することは、子供の精神的、そして社会的な発達における重要な一段階だと学者たち（彼ら）は結論づけた。
2 ②
3 真実を心の片隅に置きながら、一方で周囲の人にとって説得力のある偽りの話を作り上げる行為。
4 ④
5 (A) 人の気持ちを傷つけるのを避けるための嘘。
(B) 特に人が傷つくような場合の、深刻な問題に関する嘘。
6 ① ○ ② × ③ × ④ ○ ⑤ ○

解説

考え方をチェック

1 文構造の把握



They concluded [that learning how to lie is an important step
S V O that 節中の主語となる動名詞句「嘘をつく方法を身につけること」
(in a child's mental and social development)].

答案作成上のポイント

- **conclude that S V** は「…だと結論づける」という意味であるが、この that 節内の構造がポイント。that 節中の主語は learning how to lie であり、how to lie という〈疑問詞＋不定詞〉が learning の目的語となっている。
- step はここでは「一段階、一歩」の意味。
- mental and social はともに development にかかるが、development はここでは「発展、開発」ではなく、「発達、発育」といった訳語が適当である。

2 文脈の把握

- ①「驚き」 ②「しるし」 ③「報告」 ④「疑い」

空所直後の that の後ろが、S (they) + V (have reached) + O (an important stage in their development) が揃った完全な文になっているので、この that は関係代名詞ではなく節を導く接

続詞だと考えられる。

空所を含む文の直前の Parents should not be alarmed ... は、「親は子供の嘘に動揺するべきではない」という内容であり、それに続く部分はその理由を含めた詳しい説明となっている。したがって、選択肢の中で最も文脈に適するものは②の sign であり、ここでは a sign that ... で「…というしるし」という意味になる。この文の It は直前で述べられている「子供が嘘をつくこと」を指している点にも注意すること。

3 文脈の把握

complex mental balancing act とは「複雑な心のバランスをとる行為」という意味。この箇所を詳しく説明しているのは、この次の文 (Children have to keep ...) であり、嘘をつく時には、(i) keep the truth at the back of their minds (真実を頭の片隅に置いておく) と (ii) create a convincing but false story for those around them (周囲の人にとって説得力がある偽りの話を作り上げる) という 2 つを両立しなくてはいけないことがわかる。この 2 つの要素を解答に織り込めばよい。また、この文中の while が「…しながら【すると同時に】」という意味の接続詞である点も重要である。

図解

- (i) keep the truth at the back of their minds

keep ~ at the back of one's mind 「~を心の後方に置いておく」 = 「心の片隅に置く；心に留める」

- (ii) create a convincing but false story for those ((who are) around them)

「説得力があるが偽りの話」(convincing も false も story にかかる)

4 内容の把握

① 「年齢の低い子供たちは、研究者たちが見ていない時に、おもちゃを隠したと彼らに話した。」

第③段落第5文 (The very young children ...) に「ごく幼い子供はおもちゃを見たことを認めた」と書かれているが、おもちゃを隠したという記述はない。

② 「ある研究者が、室内でビデオカメラを持ち、彼が話しかけた時の子供たちの反応を撮影した。」

第③段落第3文 (The children's reactions ...) に、ビデオカメラは研究者が持っていたのではなく、室内に隠してセットしてあったと書かれている。また、第2～4文から、研究者が部屋を出てからの子供たちの反応が撮影されたとわかる。

③ 「最も年少の子供たちは、自分たちが、ビデオカメラを見たという事実を隠そうとしなかった。」

第③段落第4文 (When the researchers ...) から、研究者たちが子供たちに質問したのは「背後にあるおもちゃを見たかどうか」であり、「ビデオカメラを見たか」はここでは問題にされていない。

④ 「ビデオは、研究者たちがいない間の行動について 4歳児の大半が嘘をついていることを証明した。」

第③段落最終文の *most children claimed they had not done so, even though the video showed that they had* の箇所がポイントとなる。 *had not done so* は **had not taken a look** を、そして文末の *they had* は **they had taken a look** を言い換えた表現なので、「実際は見たことがビデオに映っているのに、見ていないという嘘の主張をした」ことがわかる。よって、この選択肢が正解である。

5 内容の把握

大人の社会における嘘については第①段落で述べられている。

(A)については、第3文の *is considered socially acceptable* (社会的に許容されるとみなされる) の主語にあたる動名詞句 *Lying to avoid hurting somebody's feelings* の箇所が正解に該当する。**avoid doing** は「…するのを避ける」という意味なので、「人の気持ちを傷つけるのを避けるための嘘」が答えとなる。

(B)については、第4文の最後の *is not* が第3文を受けた表現であり、**is not** のあとに **considered socially acceptable** が省略されている点に注目する。したがって「認められない嘘」については、この部分の主語にあたる *lying over serious matters, especially if people get hurt* が該当する。*over* はここでは「～に関して」という意味。「特に人が傷つくような場合の、深刻な問題に関する嘘」が答えとなる。

6 内容の把握

①○「この研究によると、多くの子供が4歳になるまでに嘘をつく技能を習得する。」

第①段落最終文 (*But 90% of ...*) に「4歳の子供の90%が嘘をつくことができる」とあることから、本文の内容に一致する。

②×「子供がうまく嘘をつけるかどうかは、親が子供をどう育てるかによって決まる。」

本文中には、子供の嘘の上手さに関する記述はなく、また親の育て方との関連性についても書かれていない。

③×「一般的な傾向として、よくしゃべる年少の子供は、そうでない子供よりも嘘をつく能力がより高い。」

本文中には、子供の話す量と嘘をつく能力との関連性に関する記述はない。

④○「親は、子供が嘘をついても失望しないようにすることが望ましい。」

第②段落第1文の *Parents should not be alarmed ...* の内容に一致する。*be advised to do* は「…することを助言〔推奨〕される」という意味。

⑤○「大人の場合、嘘をつくことは人が他者とうまく付き合うための助けとなることがある。」

第③段落第1～3文 (*Of course, ...*) の内容に一致する。*get along (well) with* は「～と(うまく)やっっていく〔付き合う〕」という意味。

第1段落

最近の研究によると、幼い時期に嘘をつく子供の方が、あとで成功する可能性が高いということだ。

▶1 カナダの児童心理学者たちが3年を費やし、2歳から14歳の間の1,200名の子供を対象としてある研究を行った。嘘のつき方を習得することは、子供の精神的、そして社会的な発達における重要な一段階だと学者たちは結論づけた。この研究の対象となった2歳児のうちのたった5分の1しか嘘をつくことができなかった。だが、4歳児では90%の子供が嘘をつくことができた。

▶1 (第2文) <spend + 時間 + doing>

Canadian child psychologists spent three years producing a study of 1,200 children

(spend + 時間 + doing) 「～かけて…する」

[(who were) aged between 2 and 14].

☐ **be likely to do** 「…しそうな；…する可能性が高い」

☐ **aged** ～ 「(年齢が) ～歳で」

☐ **conclude** 「～と結論づける」

☐ **be capable of doing** 「…する能力がある」

第2段落

トロント大学の児童研究所の所長はこう述べた。「子供が嘘をついても、親は動揺すべきではありません。子供の嘘は、子供が発達における1つの重要な段階に達したというしるしだからです。」▶2 彼らの研究では、精神的なスキルがより早く発達する子供は、早く嘘をつく傾向があるという結果を示している。嘘をつくには、一種の複雑な心のバランスをとる行為が必要だ。子供は、真実を心の片隅に置きながら、一方で周囲の人にとって説得力のある偽りの話を作り上げなくてはならないのだ。▶3 自分の話の誤りを隠し、叱責を避けるには、知性が要求されるのである。

▶2 (第3文) 関係代名詞 whose

The study shows [that children whose mental skills develop faster tend to lie earlier].

S' ▲ = children's mental skills

V'

▶3 (第6文) 不定詞の内容を受ける形式主語 it

It requires intelligence to cover up their mistakes and avoid punishment.

V₁

V₂

☐ **institute** 「協会；研究所」

☐ **alarmed** 「不安〔心配〕な；動揺した」

☐ **tend to do** 「…する傾向がある」

☐ **complex** 「複雑な；複合の」

☐ **convincing** 「説得力のある」

☐ **false** 「偽りの；誤った」

☐ **require** 「～を要求する〔が必要である〕」

☐ **cover up** ～ 「～を隠す〔取り繕う〕」

☐ **punishment** 「処罰」

第3段落

▶4 研究者たちは幼い子供たちを調査するにあたり、子供たちに、背後に置かれたおもちゃを見てはいけないと伝えた。それから彼らはその部屋を出た。子供の反応は、調査前に設置された隠されたビデオカメラで撮影された。研究者たちは部屋に戻ると、振り返っておもちゃを見たかどうか子供たちに質問した。ごく幼い子供はみな、おもちゃを見たことを認めた。▶5 だが、4歳児までには、ビデオには彼らがおもちゃを見た様子が映っているにも関わらず、大半がおもちゃを見ていないと言い張るようになった。

▶4 (第1文) 前置詞 by「～によって」

The researchers tested the younger children by telling them

S V O by doing「…することによって」

[(that) they must not look at a toy] [that had been placed behind them]].

▶5 (第6文) 直前の内容を言い換える do

But (by the age of four) most children claimed [(that) they had not done so],

S V O done so = taken a look

[even though the video showed that they had (done so)].

「～にもかかわらず」 S' V' O' done so = taken a look

- ☐ place「～を置く〔配置する〕」
- ☐ capture「～を捕える」
- ☐ set up「～を据え付ける〔セットする〕」
- ☐ turn round「後ろを向く、振り向く」

- ☐ admit「～を認める」
- ☐ take a look「見る」
- ☐ claim「～と主張する」

第4段落

当然ながら、嘘をつくことは大人の社会でも引き続き重要な役割を果たす。贈り物をもらった時に、私たちは▶6 受けとったその贈り物が自分がまったく好きでないものであっても、「ありがとう。これ、ちょうど欲しかったんだ！」と言うことが多い。人の気持ちを傷つけることを避けるために嘘をつくことは、社会的に許容されるとみなされている。▶7 だが、深刻な問題について嘘をつくことは、特に人が傷つく場合は、社会的に許容されないとみなされる。

▶6 (第2文) 関係代名詞 which [that] の省略

even when the gift [we received] is something [we don't like at all]

どちらも関係代名詞が省略されている

▶7 (第4文) 主語になる動名詞句、省略

But lying over serious matters (, especially if people get hurt,) is not.

S 動名詞句

not の後ろに considered socially accepted が省略されている

- ☐ play an important part「重要な役割を果たす」
- ☐ acceptable「受け入れられる；許容される」

1. 動名詞と不定詞

▶ 第②段落 第3文

The study shows that children whose mental skills develop faster **tend to lie** earlier.
 「嘘をつく傾向がある」

▶ 第④段落 第3文

Lying to **avoid hurting** somebody's feelings is considered socially acceptable.
 「傷つけるのを避ける」

(1) 不定詞だけを目的語にとる主な動詞

decide (決定する) / **desire** (強く望む) / **determine** (決定する) / **expect** (期待する) / **hope** (希望する) / **mean** (意図する) / **promise** (約束する) / **wish** (願う)

(2) 動名詞だけを目的語にとる主な動詞

admit (認める) / **avoid** (避ける) / **consider** (熟考する) / **deny** (否定する) / **enjoy** (楽しむ) / **finish** (終える) / **give up** (あきらめる) / **stop** (やめる)

※ **stop doing** と **stop to do** (…するために立ち止まる；立ち止まって…する) の意味の違いに注意。

(3) 不定詞も動名詞も目的語にとる主な動詞

- ① **remember to do** 「忘れないで…する」 / **remember doing** 「…したことを覚えている」
- ② **forget to do** 「…するのを忘れる」 / **forget doing** 「…したことを忘れる」
- ③ **regret to do** 「…するのを残念に思う」 / **regret doing** 「…したことを後悔している」
- ④ **try to do** 「…するよう努める」 / **try doing** 「試しに…してみる」

2. 省略

▶ 第③段落 第6文

But by the age of four most children claimed they had not done so, even though the video showed that **they had**.
 「彼らがそうした(カメラを見ていた)」

繰り返さなくても理解できる場合などに、文を簡潔にするために文の要素が省略されることがある。

(1) 主語・動詞の省略

When (**I am**) in London, I always visit the British Museum.
 (ロンドンにいる時は、いつも大英博物館を訪れる。)

(2) 共通部分の省略

Susan chose that red sweater and I (**chose**) this white one.
 (スーザンはその赤いセーターを選んだが、私はこの白いものを選んだ。)

11 印刷機の誕生

問題編 p.36

印刷機の発明は広告の歴史に何をもたらしたのか？ そして情報の伝わり方はどのように変化したか？

VOCABULARY IN FOCUS 1. advertising 「広告（すること）」 2. invention 「発明」 3. mass medium 「マスメディア」 4. announce 「～を告知する」 5. community 「(地域) 社会」

● 解答 正しい答えをチェック

1 繰り返し使用できる、独立した移動が可能な活字を用いて印刷する方式。
(33 字)

2 invention changed the way people worked and

3 ④

4 customers

5 (A) with (B) for (C) Of

6 ① × ② ○ ③ × ④ ○

● 解説 考え方をチェック

1 文脈と語句の意味の把握

グーテンベルクがこの本を作るのに用いた印刷方式は、この下線部を含む文の前の文で説明されている。その中で特に方式に該当する箇所は、a system of printing with independent, movable type that could be used again and again の部分。type はここでは「種類」ではなく「活字」という意味の名詞である。このことは、「～を用いて」という意味の前置詞 with を伴うことや、形容詞の independent (独立した), movable (移動可能な), さらにそのあとの関係詞節にある「繰り返し使用できる」という内容からも判断することができる。

図解

(In Germany) Johannes Gutenberg perfected a system of printing

S

V

O

(with independent, movable type (that could be used again and again

「独立した移動可能な活字」

↑ to produce books and other printed matter)).

副詞用法の不定詞「…するために」

2 文構造の把握

[] の前の This extraordinary は形容詞で終わっているの、あとには名詞が続くと考えられる。extraordinary は「驚くべき」という意味であり、続く名詞としては invention (発明) や way (方法) が考えられるが、This が前段落の内容を受けており、前段落で印刷機の発明について述べられていた流れから、ここでは invention を続けると自然。way は the way S V

(…するやり方)の構文で用いる。invention に続く動詞を changed, その目的語を the way ... とすれば、ここまでで「この驚くべき発明は…(する)やり方を変えた」という意味のかたまりが完成する。

残った箇所については、[]のあとに文の最後の語として communicated という動詞があることに注目し、and を動詞を結ぶ接続詞として使って、people worked and (communicated) とすれば、the way 以下が「人々が仕事しコミュニケーションをとるやり方【人々の仕事やコミュニケーションのやり方】」という意味になり、そのあとの内容とも矛盾がない。

図解

This extraordinary invention changed the way (people worked and communicated).
S V O worked と communicated がそれぞれ people の述語動詞

3 文脈の把握

①「ついに」 ②「順番に」 ③「代わりに」 ④「もはや…ない」

図解

Printing provided a way (to record facts and important information on documents)
S V O record A on B「A を B に記録する」ここでの不定詞は形容詞用法

[so that people (ア) had to rely on their memories].
so that ...「(～して) それで【その結果】…」

空所を含む文は、主節が Printing provided ... on documents (印刷技術は事実や重要な情報を文書に記録する方法を提供した)、従属節が so that people (ア) ... their memories となる。had to rely on their memories は「記憶に頼らなくてはならなかった」の意味。

so that ... には「…するために」という‘目的’を表す場合と、「(～して) それで【その結果】…」という‘結果’の意味を表す場合がある。前者では節中で will, can, may などの助動詞が用いられる。後者では so that の前にコンマが置かれることが多い。今回はコンマはないが、書かれている内容から後者と判断できる。

主節と従属節のつながりを全体の文脈も加味して考えると、「印刷技術による記録が可能になったことで、記憶に頼る必要がなくなった」という意味の文だと判断できる。したがって、最も適当なのは否定の意味を持つ④である。

4 内容の把握

空所を含む文の意味は、「印刷した広告を用いることで、小売商や商人は今や、隣近所をはるかに超える何千人もの潜在的な(イ)に手が届きうようになった」である。reach は「～に達する[(手が)届く]」という意味だが、ここでは特に「接触できる」「売り込むことができる」といった意味合いで用いられている。immediate は「すぐ近くの」、potential は「潜在的な、可能性がある」、far beyond ～は「～をはるかに超えて」という意味。第④段落では

この文以降でも「商品などを告知するのに印刷物を用いた」という内容が続いていることから、空所には**商品を買う客**を表す語が入ると推測できる。よって、この空所に入れるのに最も適した語は、第4文(Tradespeople handed ...)中の**customers**(顧客)である。なお、この文では prospective customers で「将来の〔見込みのある〕顧客」の意味を表す。

5 語法の把握

- (A) 空所を含む文の replacing 以下の部分は**分詞構文**の形になっている。空所の前に slow hand replication (時間のかかる手作業での書き写し)、空所のあとに more rapid, volume printing (より速くて大量の処理ができる印刷)という対比的な内容があり、印刷機の登場により前者に代わって後者が可能になったということが文脈から推測されるので、空所には with を入れ、**replace A with B**(A を B と取り換える〔S により B が A に取って代わる〕)の形にする。
- (B) 空所の前の a 3- by 5-inch handbill は「3 × 5 インチのチラシ」という意味。続く announcing his prayer book (祈禱書を告知する)が handbill を修飾する現在分詞句となっている。したがって、空所に for を入れて **for sale**(売るための、売り物の)という成句を作れば、「自社が販売する本を宣伝したチラシ」という内容になり、文脈に合致する。
- (C) 空所に続く the two print media は「その2つの印刷媒体(前文中の newspapers and magazines を指す)」であり、newspapers are the older は「新聞の方が古い〔早く誕生した〕」という意味になる。ここは「2つのうち一方の方がより～」の意味を表す〈the + 比較級〉の形になっている。したがって、空所には「～のうちで」を表す of が入る。

6 内容の把握

- ①×「印刷機がヨーロッパ全体で広範に使用されるようになるまでに、1世紀近くを要した。」

第①段落第4文(Within fifty years ...)の「50年以内に印刷機はヨーロッパ全土で使用されるようになった」という記述に一致しない。

- ②○「印刷機が発明される前は、方言の違いのために新しい情報は限られた地域にしか広がらなかった。」

第②段落第3文(However, "the word" seldom ...)の内容に一致する。

- ③×「印刷機が発明は人々のコミュニケーションの仕方を変えたが、読み書きの能力にはほとんど影響を与えなかった。」

第②段落第5文(Many more people ...)に「より多くの人々が読み書きできるようになった」とあるので誤り。

- ④○「印刷技術の大幅な進化がなかったら、新聞の発展は不可能だったであろう。」

第④段落第1文(The technology of ...)の内容に一致する。

第1段落

広告の歴史において最も重要な進展は、1440年代半ば頃の印刷機の導入であった。ドイツでヨハネス・グーテンベルクが、本やその他の印刷物を作るために繰り返し使用できる、独立した移動が可能な活字を用いた印刷方式を完成させたのだ。¹ グーテンベルクにより初めて発行された活版印刷本であった聖書は、その後の印刷業者にとって高い基準を設定することになった。それから50年以内に印刷機はヨーロッパ全土で使用されるようになり、これによって、時間のかかる手作業での書き写しは、より速くて大量の処理ができる印刷に取って代わられた。

▶1 (第3文) コンマで区切られる同格関係

The first typographic book [(that was) issued by Gutenberg], the Bible,

5

The first typographic book と the Bible は同格の関係

set a high standard (for later printers).

✓

- ☐ **introduction** 「導入；紹介」
- ☐ **perfect** 「～を完成する」
- ☐ **movable** 「移動できる，可動の」
- ☐ **type** 「活字；種類」
- ☐ **typographic** 「(活版)印刷の」

- ☐ **issue** 「～を発行する」
- ☐ the Bible 「聖書」
- ☐ **standard** 「基準」
- ☐ in operation 「運転〔作動〕中で」
- ☐ **volume** 「量、分量」

第②段落

この驚くべき発明は、人々の仕事やコミュニケーションのやり方を変えてしまった。印刷機の発明以前は、読み書きができるのはごくわずかな学識のある僧侶や学者だけであり、新しい情報は口頭で伝わっていた。だが、地域によって方言が違っていたため、「言葉（口頭での伝言）」が約 50 マイル以上の距離を伝えることはめったになかった。印刷技術は事実や重要な情報を文書に記録する方法を与え、その結果、人々はもはや記憶に頼る必要がなくなった。以前よりもはるかに多くの人が読み書きできるようになり、そして考えも急速に広まった。² またこうした新しい技術は、印刷されたチラシやポスター、営業用のカードといった初期の形態の広告、さらに最初のマスメディアである新聞の発達を可能にした。

▶2 (第6文) ダッシュで区切られる 同格関係

The new technology also enabled the development of

S

V

the first forms of advertising

①

— printed handbills, posters, and trade cards —

and the first mass medium — newspapers.

② それぞれダッシュ (一) の部分が同格の関係になっている

- ☐ learned 「学識のある」 発音は [ləɹnɪd]
- ☐ monk 「僧侶」
- ☐ scholar 「学者」
- ☐ travel 「伝わる；旅行〔移動〕する」
- ☐ by word of mouth 「口頭で」
- ☐ carry 国 「伝わる」

- ☐ dialect 「方言」
- ☐ from region to region 「地域ごとに」
- ☐ rely on ～ 「～に頼る」
- ☐ enable 「～を可能にする」
- ☐ trade card 「名刺，営業用カード」

第③段落

印刷した広告を用いることで，小売商や商人は今や，隣近所をはるかに超える何千人もの潜在的な顧客に手が届きうようになった。1477年にはロンドンの印刷業者ウィリアム・カクストンが，英語で書かれた初めての印刷広告を貼り出した。それは，自社が販売する祈禱書を告知する3×5インチのチラシだった。教会は，典礼文を広めたり，寄付を募ったり，聖職者を募集したりするために印刷物を用いた。▶3 小売商は，将来の客になる見込みがある人々に対し，イラスト入りの店のチラシをカウンター越しに手渡したり，一戸一戸配ったりした。そして医薬品の生産者は，ポスターに似たラベルを瓶に貼り始めた。このラベルは，現代の包装の先駆けとなった。他にも，公式の発表，プログラム，メニュー，そして展覧会や博物館，教会や町や宿屋の案内の書式に，印刷された情報が記されるようになった。

▶3 (第4文) 2つの副詞句

Tradespeople handed illustrated shopbills out

S V O hand ~ out 「～を配る」

over the counter or door-to-door to prospective customers.

「カウンター越しに」

「一戸ずつ個別に」

- ☐ tradespeople 「小売商」
- ☐ merchant 「商人，卸売商」
- ☐ potential 「潜在的な，可能性がある」
- ☐ immediate 「即座の，すぐ近くの」
- ☐ post 「～（ビラなど）を貼る〔掲示する〕」
- ☐ prayer 「祈り」

- ☐ contribution 「寄付；貢献」
- ☐ prospective 「見込みのある，予想される」
- ☐ remedy 「治療薬，療法」
- ☐ attach 「～を（取り）付ける」
- ☐ forerunner 「先駆者，先駆け」
- ☐ inn 「宿屋」

第④段落

また印刷技術は，新聞と雑誌の劇的な発展をももたらし，これらが周辺の地域社会へと広告を運んだ。この2つの印刷媒体のうちでは，新聞の方が先に誕生した。

- ☐ dramatic 「劇的な，目覚ましい」
- ☐ surrounding 「周囲の」
- ☐ print media 「活字（印刷）媒体」

1. 無生物主語構文

▶ 第②段落 第1文

This extraordinary invention changed the way people worked and communicated.

「この驚くべき発明によって～が変わった」

‘人’以外のものを主語にした英文を無生物主語構文という。無生物主語構文は一般的に〈無生物主語＋動詞＋‘人’〉の形（上の英文のように目的語に‘人’をとらない場合もある）で、ものごとの‘影響’や‘原因’を表す。代表的な無生物主語構文には以下のものがある。

- (1) <allow [permit] + O + to do> 「～が…するのを許す」

This ID card **allows us to access** all areas of this building.

（この身分証明書があれば、この建物のすべての区域に入ることができる。）

- (2) <enable + O + to do> 「～が…するのを可能にする」

The mild climate **enables us to grow** various fruits and vegetables.

（温暖な気候のおかげで、私たちはさまざまな果物や野菜を育てることができる。）

- (3) <prevent [keep] + O + from doing> 「～が…するのを妨げる〔～に…させない〕」

The heavy storm **prevented them from going** on a trip to Okinawa.

（ひどい嵐のせいで、彼らは沖縄への旅行に行くことができなかった。）

2. ‘目的’・‘結果’を表す副詞節を導く表現

▶ 第②段落 第4文

Printing provided a way to record facts and important information on documents **so that** people no longer had to rely on their memories.

「～した結果…」

so that ... には「…するために」という‘目的’を表す用法と、「それで…;その結果…」という‘結果’を表す用法がある。

Please speak a little louder **so that** I can hear you. (⇒ ‘目的’)

（私に聞こえるようにもう少し大きな声で話してください。）

He overslept, **so that** he couldn't participate in the meeting. (⇒ ‘結果’)

（彼は寝坊して、その結果会議に参加することができなかった。）

その他、‘目的’や‘結果’を表す副詞句を導く表現には以下のようなものがある。

I have to tell him the fact **in order that** he won't misunderstand me.

（彼が私を誤解しないように、彼に事実を話さなくてはならない。）

It was **so cold that** the water pipe froze.

（あまりに寒かったので水道管が凍ってしまった。）

12 教室における多様性に向き合う

問題編 p.40

生徒の話す母語が多様化している中、教室ではどんな問題が起きているのか？ そして教師がとるべき対応策とは？

● 解答 < 正しい答え をチェック

1 ③

2 ④

3 すべての教師が言語に関して知るべきだと彼女たち〔筆者たち〕が感じていること、さらにその知識を教室での授業に取り入れる方法についての提案

4 教師は他の言語の専門的な知識より、言語の相互的な関係や、言語経験と認知的・社会的な成長の関係を理解する必要があると考えているから。(65 字)

〔別解〕 教師は、言語が相互的にどう関係しているか、また言語経験が認知的・社会的な成長とどう関係しているか理解する必要があると考えているから。(66 字)

5 ①

6 ① ○ ② × ③ × ④ ○

● 解説 < 考え方をチェック

1 文脈の把握

①「失望した」 ②「不快に感じて」 ③「わくわくした」 ④「困惑した」

空所に続く but 以下で **wasn't long before** the young teacher called her mentor in a panic (間もなくその若い教師は、動揺して指導担当者に電話をかけた) と書かれている。but は「逆接」の意味を表す接続詞なので、空所を含む部分がこの箇所に戻す内容になればよい。したがって、空所に入れる語としては、③ excited が最も適当である。

2 文脈の把握

下線部の語の diversity は「多様性」という意味。下線部を含む How could she handle such diversity は間接話法であり(→全訳▶2)、直接話法で表せば "How can I handle such diversity?" (こうした多様性にはどうすれば対処できるのか) となる。such が指示する内容を探して直前の文を見てみると、ある若い教師が元教師だった母親に「担当する生徒の4分の1がそれぞれ違う言語を話す」ことについて不平を述べたという内容が書かれている。文脈より、この部分が「(生徒の言語背景の)多様性」にあたる内容である。これに最も近い意味の選択肢は④。選択肢①～③の「能力を持つ」、「…するのが困難」、「不満が出る」の意味はそれぞれ diversity の意味としても不適。

3 文構造の把握

図解

Marilyn Shatz and Louise Wilkinson explain (— in a readable and useful format —)

S

V

「読みやすく、役に立つ形で」

[what / they feel / all teachers need to know about languages],

what 以下は explain の目的語 what all teachers need to know about languages + they feel に分けて考える

as well as suggestions for (how to integrate that knowledge into classroom lessons).

how 以下が for の目的語

答案作成上のポイント

- what の前に in a readable and useful format がダッシュ (—) で挟まれているが、この部分は「読みやすく、役に立つ形で」の意味で挿入的に置かれている。この挿入部分を除いて考えると、what they feel ... languages と suggestions for how to ... classroom lessons の2カ所がそれぞれ explain の目的語となっていることがわかる。
- A as well as B は「B だけでなく A も、B の他に A も」という意味で、ここでは前述の explain の2つの目的語をつないでいる。解答では内容的に A から先に訳している。
- 1つ目の目的語である what 節について、what they feel までを名詞節と考えても文意が成立しない。ここでの what は need to know の目的語であり、they feel が挿入された形である。訳出の際は「すべての教師が言語について知る必要があること (what all teachers need to know about languages)」+「筆者たちが考える (they feel)」の2つの部分の意味をまとめればよい。
- 2つ目の目的語については、まず suggestions for ～ が「～の【についての】提案」の意味であり、この for の目的語になるのが how to do (…する方法) の名詞句である。integrate A into B は「A を B に統合する (取り入れる)」という意味。that knowledge とは前の what 節で説明される「すべての教師が言語について持つべき知識」を指す。

採点のポイント

配点 10 点

① what they feel all teachers need to know about languages,

(4 点)

② as well as suggestions for how to integrate that knowledge into classroom lessons

(6 点)

- ① what they feel all teachers need to know about languages, 「すべての教師が言語に関して知るべきだと彼女たち (筆者たち) が感じていること」 (4 点)

→ 構文理解

they feel が挿入であることがとらえられていない場合は -4 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

→ all teachers need to know about languages の訳 (2点)

(○) 「すべての教師が言語に関して知る必要がある」

② as well as suggestions for how to integrate that knowledge into classroom lessons 「さらにその知識を教室での授業に取り入れる方法についての提案」 (6点)

→ as well as の訳 (2点)

(○) 「知識を教室に取り入れる方法についての提案だけでなく、すべての教師が言語に関して知るべきだと彼女たちが感じていること」 as well as ~ の訳を前半に置いている

→ suggestions for how to integrate that knowledge into classroom lessons の訳 (4点)

(○) 「その知識を教室での授業でどのように取り入れるかについての提案」

4 内容の把握

下線部を含む文では「教師が言語学の専門家である必要や、他の言語を知る必要はない」という本文中に登場する書籍の筆者たちの考えが述べられている。次の文は **Rather** (むしろ) で始まっているので、この文で下線部の内容よりも重要だと筆者たちが考えることが書かれているとわかる。したがって、この **Rather** で始まる文の内容をまとめて解答すればよい。

Rather で始まる第⑤段落第2文の構造では、**how** を用いた2つの節がそれぞれ **understand** の目的語となっている点が読解のポイントとなる。relate to ~ は「～に関係〔関連〕する」、one another は「お互い」の意味。cognitive and social growth は「認知的・社会的な成長」「認知面や社会性の成長」のように訳すことができる。**Rather** は、具体的に下線部の内容をまとめて「他の言語の専門的な知識よりも」のように訳すとよい。

図解

Rather, teachers need to understand [how languages relate to one another]

S

V

understand の目的語になる名詞節①

and [how language experience relates to cognitive and social growth].

understand の目的語になる名詞節②

採点のポイント

→ 要点理解

① 「教師は(他の言語の専門的な知識より)…する必要があると筆者たちは考えている」(4点)

② 「言語の相互的な関係」(4点)

(○) 「言語がお互いにどのように関係しているか」

③ 「言語経験と認知的・社会的な成長の関係」(4点)

(○) 「言語経験と認知的・社会的な成長がどのように関係しているか」

→ 文末表現・字数制限 (全体から減点)

(×) 「～から」のように、理由を表す表現を文末に含まないもの(-2点)

(×) 59字以下、71字以上のもの(-2点)

5 内容の把握

第⑥段落では、第1文で「学習とは教師と生徒の間での相互作用から生じる」という前述の書籍の筆者たちの考えが述べられている。第1文後半の the former (前者) は teacher を、the latter (後者) は student を指し、「生徒がすでに知っている知識に基づいて、教師が新たな知識を身につける足場作り (scaffold) をする」という意味になる。生徒が自身の持つ古い知識と新しい知識を統合させる手助けを教師が行うための第一歩として、第3文で述べられているのが「言語マップ」の作成である。教室におけるさまざまな言語・生徒の背景・習熟度を記録したものを、生徒の学習段階に応じた「足場作り」の参考として活用するとよいという主旨の内容が述べられている。これらの内容を総合すると、段落のまとめとして最も適当なのは①である。

②の「生徒同士もお互いの知識を補い合いながら学習を進めるべき」、③の「それ(生徒の文化的・言語的背景の多様性の記録)を地域社会全体で理解・共有するべき」は本文中で言及されていない。④については「クラスに適したレベルの英語で授業を進めるべき」ではなく、マップを参考にしながら「足場作りをすべき」だと第3文に書かれている。

6 内容の把握

①○「第2段落で言及されている教師の母親が学校で教えていた頃、教室における外国語を話す生徒の問題は、現在ほどよくあることではなかった。」

第②段落第3文 (How could she ...) に「(母親は) 在職中この問題に遭遇したことはなかった」とあり、第④段落第1文からも最近増加してきている問題だとわかる。

②×「外国から来た生徒の増加に伴い、学校は生徒が教室での英語を理解することの支援を仕事とする職員を積極的に雇用している。」

学校の取り組みとして、生徒が教室での英語を理解するのを支援するために職員を積極的に雇用しているという記述は本文中にない。

③×「多様な言語を扱うための経験やノウハウがあるために、より上級のクラスの教師は、学校における言語の多様性に悩まされることが比較的少ない。」

第④段落第2文 (With little experience ...) より、教室での生徒の話す言語の多様性についての問題は教師のレベルに関わらず生じているものだとなる。

④○「母語が英語でない生徒たちへの対応方法を学ぶことは、理科や数学の教師にとっても同様に有意義である。」

第④段落第2文 (Even science and math teachers, ...) の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

その若い女性教師は、最初の仕事が見つかったことではりきっていた。だが彼女が指導担当者に動揺して電話をかけてきたのは、それから間もなくのことだった。▶¹ 彼女が配属されたのは、彼女が何の知識も経験も持たない言語であるクメール語を話す移民の子供たちが過半数を占める学級だったのだ。

▶1 (第2文) nor の用法

She'd been assigned to a class (with a majority of immigrant children (who spoke Khmer with 以下の内容は a class を修飾している

— a language (she had no knowledge of nor experience with))).

a language は Khmer と同格 ▲ nor は no や not などのあとで使われ、「～もまたない」の意味

she had no knowledge of (the language) + she had no experience with (the language) と読む

- ☐ in a panic 「慌てふためいて、動揺して」
- ☐ **be assigned to** ～ 「～に割り当てられる」
- ☐ **majority** 「大多数、過半数」

- ☐ **immigrant** 「移民」
- ☐ **knowledge** 「知識」
- ☐ **have experience with** ～ 「～の経験がある」

第2段落

▶2 「私はどうすればいいのかしら。」そう彼女は嘆いた。「あの言葉がどこで話されているのか、そして子供たちがどこの出身なのかもわからないのよ。」また国の中部では、別の若い教師がその母親（この母親自身もすでに退職した教師で、同じ地区で働いていた）に、自分の生徒の4分の1がそれぞれ違う言語を話すという不平を述べていた。▶2 「こうした多様性にはどうすれば対処できるのかしら」と彼女はたずねたが、母親は（在職中にこの問題に遭遇したことはなかったので）答えることができなかった。

▶2 (第1文・第3文) 話法の書き換え

What should she do, she lamented;

= "What shall I do?" she lamented. 「私はどうすればいいのか」

she didn't even know where the language was spoken or where the children came from

= "I don't even know where the language is spoken or where the children come from."

How could she handle such diversity, she asked,

= "How can I handle such diversity?" she asked.

話法を変える際は、時制や人称代名詞、指示語に注意する

- ☐ lament 「～を〔と〕嘆く」
- ☐ halfway 「中間で、中ほどで」
- ☐ **complain** ㊦ 「…だと不満を言う」 ㊦ 「(～について) 不満を言う」
- ☐ **retired** 「退職した」
- ☐ **district** 「地区、区域」

- ☐ **a quarter of** ～ 「～の4分の1」
- ☐ **handle** 「～を扱う〔処理する〕」
- ☐ **diversity** 「多様性」
- ☐ **encounter** 「～に出会う〔遭遇する〕」
- ☐ **career** 「経歴、職業」

第3段落

これらの事例は、世界中の教育界が直面する課題を代表するものだ。それはつまり、教室において大きくなりつつある生徒の言語的・文化的多様性である。▶3 教育現場のあらゆるレベルの教師が、多様な言語と文化に関する経験がほとんどないために、学校教育で用いられる言語——一般的には学校英語——に対処する十分な能力を持たないであろう生徒たちに手を差しのべる準備ができていないことが多いのだ。

▶3 (第2文) '理由' を表す with

(With little experience in diverse languages and cultures,)

「多様な言語と文化に関する経験がほとんどないために、」

teachers (at all levels of the educational enterprise) are often unprepared

to reach students (that may be ill-equipped to deal with the language of schooling — typically Academic English).

同格の関係

- ☐ representative of 「～を代表する」
- ☐ educational 「教育の、教育に関わる」
- ☐ linguistic 「言語の」

- ☐ enterprise 「事業、仕事；企業」
- ☐ schooling 「学校教育」

第4段落

マリリン・シャッツとルイズ・ウィルキンソンは、新たに出版された『多様な教室における言語の理解：すべての教師のための入門書』と題された書籍において、すべての教師が言語に関して知るべきだと彼女たちが感じていること、さらにその知識を教室での授業に取り入れる方法についての提案を、読みやすく役に立つ形で説明している。▶4 彼女たちが論じるには、理科や数学の教師でさえも、学校英語に堪能でない生徒のニーズへの対処の仕方を学ぶことで恩恵が得られる可能性があるとのことである。

▶4 (第2文) 挿入、目的語になる how to do

Even science and math teachers /, they argue, / can benefit from

learning how to address the needs of students (not proficient in Academic English).

how 以下の内容が learning の目的語

students を修飾する形容詞句

- ☐ publish 「～を出版〔刊行〕する」
- ☐ integrate 「～を統合する」
- ☐ argue 「～だと論じる〔主張する〕」

- ☐ benefit from 「～から恩恵を受ける〔利益を得る〕」
- ☐ address 「～に対処する〔取り組む〕」
- ☐ proficient in 「～に堪能な」

第5段落

筆者たちはためらいなく、教師が言語学の専門家である必要や、他の言語を知る必要はないと言う。それよりも、教師は言語が互いにどう関係しているかや、言語経験が認知的・社会的な成長とどう関係しているかを理解する必要があるというのである。

- ☐ author 「筆者」
- ☐ quick to do 「素早く…する、ためらうことなく…する」

- ☐ expert ㊦「専門の、熟練した」㊧「専門家」
- ☐ relate to 「～と関係〔関連〕する」
- ☐ one another 「お互い」

第6段落

2人の筆者は、学習とは、生徒がすでに知っていることに基づいて教師が新たな知識の足場作りをする中で、必ず教師と生徒の間の相互作用から生まれるものであると述べている。それゆえに、教師は生徒が新たな知識を（すでに知っている）古い知識と統合する手助けとなるような行動をとる必要がある。

▶5 その第一歩となるのは、(教室内で用いられる) さまざまな言語や生徒の背景、習熟度を記録した、個々の生徒が進歩するのに応じて教師が行う必要のある足場作りのための参考として年間を通じて利用することができるような、教室の言語マップの作成であろう。

▶5 (第3文) 複数の関係代名詞節を含む文

A first step would be to create a language map of the classroom

S V C 名詞用法の不定詞句が補語となっている

[that records the various languages, student backgrounds, and proficiencies],

a language map of the classroom を先行詞とする関係代名詞節①

and [that can be used as a reference throughout the year

a language map of the classroom を先行詞とする関係代名詞節②

for [the kinds of scaffolding] [that the teacher needs to do

the kinds of scaffolding が先行詞

/ as individual students progress)],
as は接続詞 (…するのと並行して)

□ **necessarily** 「必ず、必然的に」 否定文では「必ずしも…ではない」の意味。

□ **interaction** 「相互作用 [関係]」

□ **take action to do** 「…するための措置 [行動]」

をとる」

□ **proficiency** 「習熟、熟達」

□ **reference** 「参考、参照」

□ **progress** 「進行 [進歩] する」

MEMO

MEMO

- 1** From For your information 2 by Karen Lourie Blanchard, Christine Baker Root
copyright © 2003 by Karen Lourie Blanchard, Christine Baker Root
- 2** From THE FISH WHICH CHANGES FROM FEMALE TO MALE (posted on <http://www.pitara.com/discover/earth/online.asp?story=66>) by Geetlka Anand copyright © 2011 by Geetlka Anand Used by permission of Pitara Kids Network Private Limited
- 4** Extract from ISTANBUL: Hatiralar ve Sehir by Orhan Pamuk. Copyright © 2003, Yapi Kredi Kültür Sanat Yayıncılık Ticaret ve Sanayi A. S., used by permission of The Wylie Agency (UK) Limited.
- 5** *LEVINE, DEENA R.; ADELMAN, MARA B., BEYOND LANGUAGE: CROSS CULTURAL COMMUNICATION, 2nd Edition*, © 1993. Reprinted by permission of Pearson Education, Inc., Upper Saddle River, New Jersey.
- 7** 2009年5月9日 The Japan Times (共同通信配信)
- 8** From THE ART OF CHOOSING by Sheena Iyengar. Copyright © 2010 by Sheena Iyengar. By permission of Grand Central Publishing. All rights reserved.
- 9** From SEEKING THE STARS (posted on <http://kids.nationalgeographic.com/kids/stories/spacescience/lightpollution/>) by National Geographic Kids copyright by National Geographic Kids Used by permission of National Geographic Society
- 11** From ADVERTISING AGE: History: Pre-19th Century (posted on <http://adage.com/article/adage-encyclopedia/history-pre-19th-century/98707/>) by <http://adage.com> copyright © 2003 by <http://adage.com> Used by permission of The Ad Age Group
- 12** From Interpreting Language in Classrooms by Psychology Today copyright © 2014 by Sussex Publishers Used by permission of Sussex Publishers, LLC

合格へ導く 英語長文 **Rise 読解演習 1. 基礎編** (高2～センター試験基礎レベル)

初版第1刷発行	2013年3月10日
初版第7刷発行	2018年10月10日
編者	Z会出版編集部
発行人	藤井孝昭
発行	Z会
	〒411-0033 静岡県三島市文教町 1-9-11
	TEL 055-976-9095
	https://www.zkai.co.jp/books/
装丁	山口秀昭 (Studio Flavor)
印刷・製本	日経印刷株式会社
DTP	株式会社 デジタルプレス

© Z会 2013 ★無断で複写・複製することを禁じます

定価はカバーに表示してあります

乱丁・落丁はお取り替えいたします

ISBN978-4-86066-919-5 C7082